

GA-8N-SLI QUAD Royal

Intel® Pentium® プロセッサエクストリームエディション

Intel® Pentium® D / Pentium® 4 LGA775 プロセッサマザーボード

ユーザーズマニュアル

改版 1002

12MJ-8NSLIQU-1002R



- * 製品の WEEE マークは、この製品を他の家庭ゴミと共に廃棄することを禁じ、廃棄電気電子機器のリサイクルのための指定収集場所に引き渡す必要を示しています！！
- * WEEE マークは EU 加盟国のみに適用されます。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausschlaggr Weg 41, 1F 20537 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

GA-8N-SLI QUAD Royal
Motherboard

is in conformity with the EMC Directive
(reference to the applicable EMC Directive)
in accordance with 89/388 EEC/EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☒ EN 61000-3-2	Disturbances in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☒ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances and associated apparatus	☒ EN 55024	Information Technology equipment immunity to radio frequency electromagnetic fields and methods of measurement
☐ EN 55014-1	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☐ EN 55002-1	Generic immunity standard Part 1: Residual commercial and light industry industrial environment
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires	☐ EN 55014-2	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of household appliances and associated equipment	☐ EN 55004-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment		
☐ EN IEC 5505	Cabled cabling systems: Equipment for cabling and/or distribution from part 10		
☐ part 12	sound and television signals		
☒ CE marking	(EC conformity marking)		
The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the actual required safety standards in accordance with LVD 7323 EEC			
☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated household and similar general use electrical appliances	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical business equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 60904-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date: Nov. 16, 2005

Signature: Timmy Huang
Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-8N-SLI QUAD Royal

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Nov. 16, 2005

著作権

© 2005 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。
本書に記載された商標は各社の登録商標です。

注意

本製品に付随する記載事項は Gigabyte の所有物です。
当社の書面による許可なく、複製、翻訳または転送することは堅く禁じられています。
仕様および機能特徴は、予告なしに変更する場合があります。

製品マニュアル分類

本製品を簡単にご使用いただけるように、Gigabyte は以下のようにユーザマニュアルを分類しています：

- クイックインストールに関しては、製品付属の“ハードウェアインストールガイド”を参照してください。
- 製品情報および仕様に関する詳細は、“製品ユーザマニュアル”を参照してください。
- Gigabyte 特有機能の詳細については、Gigabyte Web サイトの“Technology Guide”セクションにて必要な情報を参照またはダウンロードしてください。

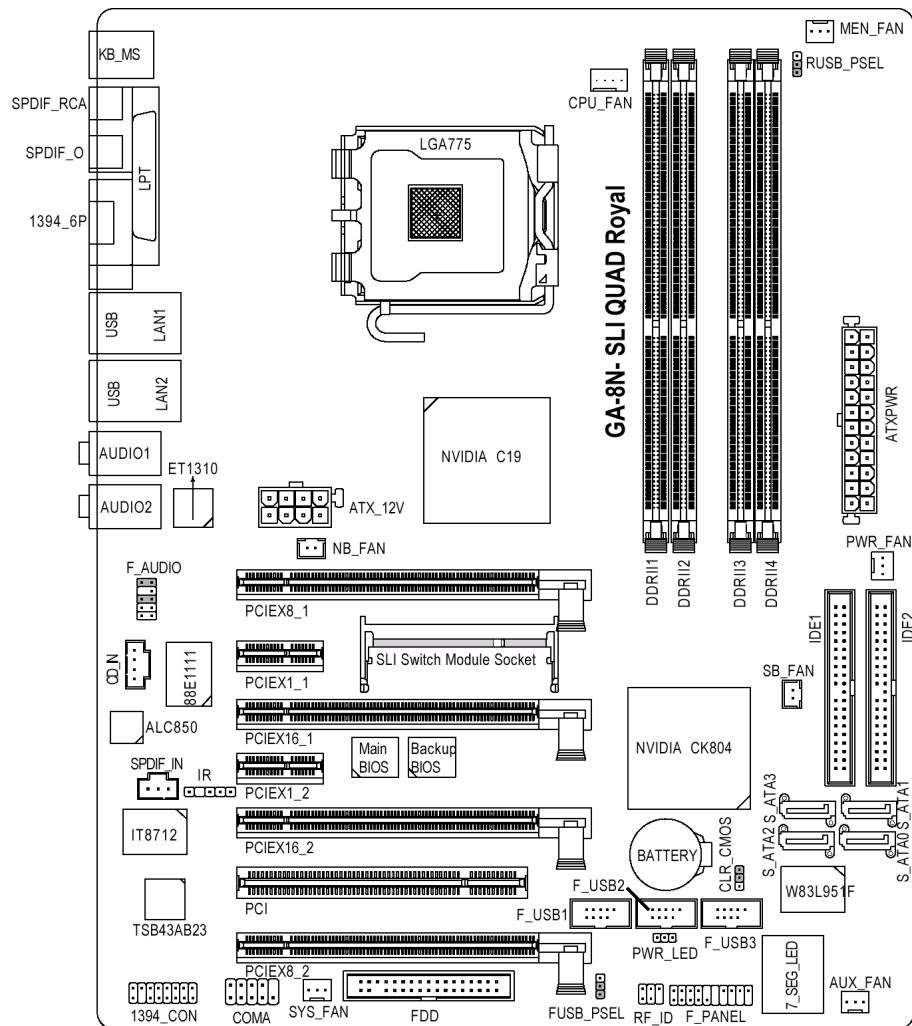
製品の詳細に関しては、Gigabyte のウェブサイト www.gigabyte.com.tw にアクセスしてください。

目次

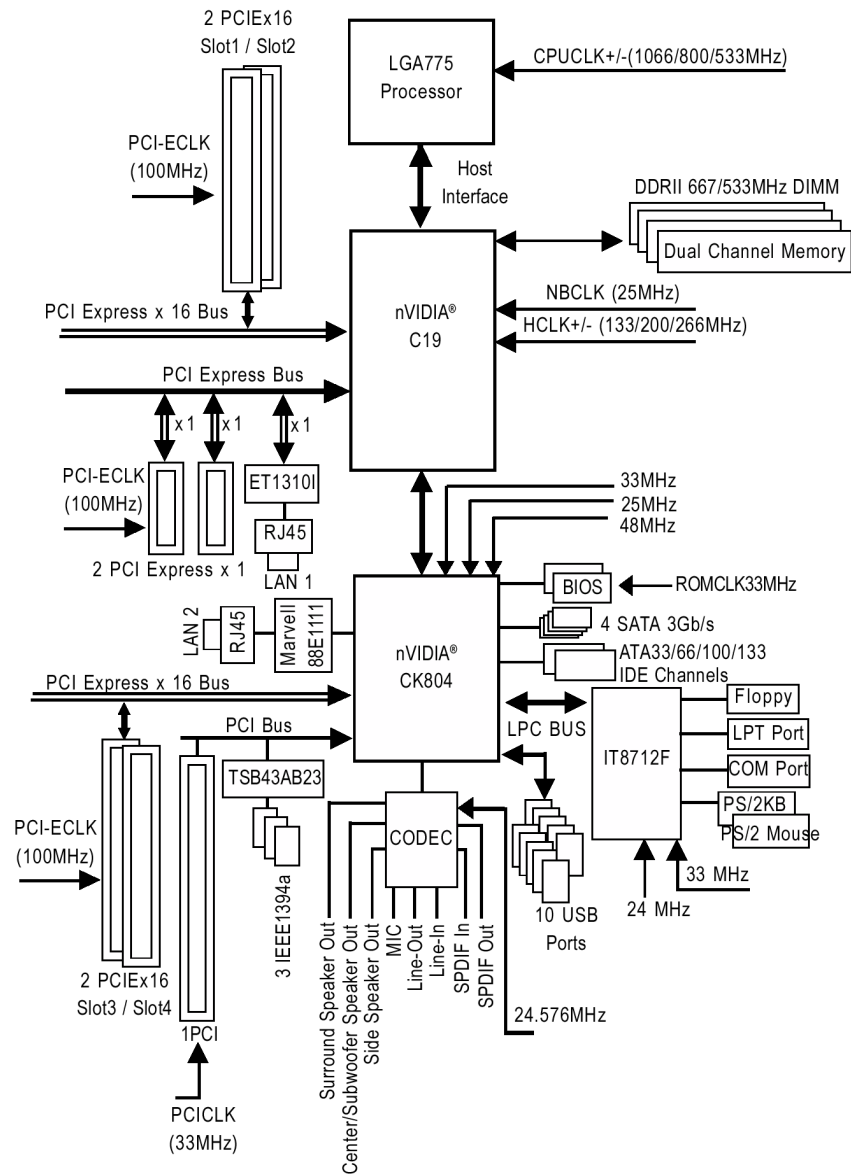
GA-8N-SLI QUAD Royal マザーボードレイアウト	6
ブロック図	7
第 1 章 ハードウェアのインストール	9
1-1 取り付け前に	9
1-2 特長の概略	10
1-3 CPU とヒートシンクの取り付け	12
1-3-1 CPU の取り付け	12
1-3-2 ヒートシンクの取り付け	13
1-4 Cool-Plus (ノースブリッジクーリングファン)のインストール/取り外し	14
1-5 メモリの取り付け	14
1-6 拡張カードのインストール	16
1-7 SLI (Scalable Link Interface)構成の設定	17
1-7-1 操作の準備	17
1-7-2 SLI 応用の組み合わせ	20
1-7-3 グラフィックカード対応リスト	20
1-8 Multi View システムの設定	22
1-8-1 Multi View 応用の組み合わせ	23
1-8-2 グラフィックカード対応リスト	23
1-9 I/O 後部パネルの紹介	24
1-10 コネクタはじめに	25
第 2 章 BIOS のセットアップ	37
メインメニュー(例: BIOS Ver.: F1)	38
2-1 Standard CMOS Features	40
2-2 Advanced BIOS Features	43
2-3 Integrated Peripherals	45
2-4 Power Management Setup	49
2-5 PnP/PCI Configurations	51
2-6 PC Health Status	52
2-7 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)	53
2-8 Select Language	58
2-9 Load Fail-Safe Defaults	58
2-10 Load Optimized Defaults	58
2-11 Set Supervisor/User Password	59
2-12 Save & Exit Setup	60
2-13 Exit Without Saving	60

第 3 章 ドライバのインストール.....	61
3-1 チップセットドライバのインストール.....	61
3-2 ソフトウェアのアプリケーション.....	62
3-3 ソフトウェアの情報.....	62
3-4 ハードウェアの情報.....	63
3-5 当社への御連絡.....	63
第 4 章 付録.....	65
4-1 ユニークソフトウェアユーティリティ.....	65
4-1-1 EasyTune 5 紹介.....	66
4-1-2 Xpress Recovery2 の紹介.....	67
4-1-3 BIOS のフラッシュ方法の説明.....	69
4-1-4 SATA ハードドライブの構成 (コントローラ: nVIDIA nForce4 SLI) ..	81
(1) SATA ハードドライブをコンピュータに取り付け.....	81
(2) SATA コントローラモード及び起動順序を BIOS セットアップで設定 ..	81
(3) RAID BIOS での RAID 構成の設定.....	85
(4) SATA コントローラのドライバディスクの作成.....	88
(5) OS インストール中に SATA コントローラ ドライバをインストール.....	90
(6) Microsoft 2000 で起動可能な RAID アレイを構成.....	92
4-1-5 2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオ機能紹介.....	96
4-2 トラブルシューティング.....	100
4-3 POST エラーコード.....	100

GA-8N-SLI QUAD Royal マザーボードレイアウト



ブロック図



[illegible]

第1章 ハードウェアのインストール

1-1 取り付け前に

コンピュータを用意する

マザーボードには、静電放電(ESD)により損傷を受ける、様々な精密電子回路および装置が搭載されていますので、取り付け前に、以下をよくお読みください：

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. マザーボードを取り扱う際は、金属部またはコネクタに触れないでください。
3. 電子部品(CPU、RAM)を取り扱う際は、静電防止用(ESD)ストラップを着用してください。
4. 電子部品を取り付ける前に、電子部品を静電防止パッドの上、または静電シールドコンテナ内に置いてください。
5. マザーボードから電源コネクタのプラグを抜く前に、電源が切断されていることを確認してください。

取り付け時のご注意

1. 取り付ける前に、マザーボードに貼布されているステッカーを剥がさないでください。これらのステッカーは、保証の確認に必要となります。
2. マザーボード、またはハードウェアを取り付ける前に、必ず、マニュアルをよくお読みください。
3. 製品を使用する前に、すべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
4. マザーボードへの損傷を防ぐため、ネジをマザーボード回路、またはその機器装置に接触させないでください。
5. マザーボードの上、またはコンピュータケースの中に、ねじ或いは金属部品を残さないようにしてください。
6. コンピュータを不安定な場所に置かないでください。
7. 取り付け中にコンピュータの電源を入れると、システムコンポーネントまたは人体への損傷に繋がる恐れがあります。
8. 取り付け手順や製品の使用に関する疑問がある場合は、公認のコンピュータ技師にご相談ください。

保証対象外

1. 天災地変、事故又はお客様の責任により生じた破損。
2. ユーザマニュアルに記載された注意事項に違反したことによる破損。
3. 不適切な取り付けによる破損。
4. 認定外コンポーネントの使用による破損。
5. 許容パラメータを超える使用による破損。
6. Gigabyte 製品以外の製品使用による破損。

1-2 特長の概略

CPU	◆ LGA775 Intel® Pentium®プロセッサエクストリームエディション/Pentium® D/ Pentium® 4 をサポート ◆ 1066/800/533MHz FSB をサポート ◆ L2 キャッシュは CPU により異なります
チップセット	◆ ノースブリッジ: nVIDIA® nForce 4 SLI Intel Edition (Crush 19) ◆ サウスブリッジ: nVIDIA® CK804 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
メモリ	◆ 4 DDR DIMM II メモリスロット (最大4 GB のメモリをサポート) ◆ デュアルチャンネル DDR II 667/533 アンバッファード DIMM をサポート ◆ 1.8V DDR DIMM II をサポート
スロット	◆ 4 個の PCI エクスプレス x 16 スロット ◆ 2 個の PCI エクスプレス x 1 スロット ◆ 1 個の PCI スロット
IDE 接続	◆ CK804 (IDE1/IDE2) (UDMA 33/ATA 66/ATA 100/ATA 133)からの 2 つのポートで、4 台の IDE デバイスに接続可能 - Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
FDD 接続	◆ 1 つの FDD 接続で、2 台の FDD デバイスに接続可能
オンボード SATA 3Gb/s	◆ 4 つの SATA 3Gb/s ポート: CK804 コントローラ(SATA0, SATA1, SATA2, SATA3)からの 4 つのポート - Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
周辺装置	◆ 1 個のバラレルポートで通常/EPP/ECP モードをサポート ◆ 1 個のシリアルポート(COMA) ◆ 10 個の USB 2.0/1.1 ポート(後部 x 4、前部 x 6 ケーブル経由) ◆ 3 個の IEEE1394 コネクタ(必要ケーブル) ◆ 1 個のフロントオーディオコネクタ ◆ 1 個の PS/2 キーボードポート ◆ 1 個の PS/2 マウスポート
オンボード LAN	◆ オンボード Agere ET1310 チップ(10/100/1000 Mbit) (LAN1) ◆ オンボード 88E1111 phy (10/100/1000 Mbit) - Win 2000/XP オペレーティングシステム対応 ◆ 2 個の RJ45 ポート

オンボードオーディオ	◆ ALC850 CODEC ◆ 2 / 4 / 6 / 8 チャンネルオーディオをサポート ◆ ライン入力、ライン出力(フロントスピーカー出力)、マイク、サラウンドスピーカー出力(リアスピーカー出力)、センター/サブウーファースピーカー出力、サイドスピーカー出力の接続をサポート ◆ SPDIF_IN 接続 ◆ SPDIF_Out (光+同軸)接続 ◆ CD_IN 接続
I/O コントロール	◆ IT8712F
ハードウェアモニタ	◆ システム電圧検出 ◆ CPU / NB / Power IC / 温度検出 ◆ CPU / システム / パワー / 補助装置 / メモリ ファン速度検出 ◆ CPU 温度警告 ◆ CPU/システム/パワーファン故障警告
オンボード SATA 3Gb/s RAID	◆ オンボード nVIDIA® CK804 チップセット - データのストライピング(RAID 0)、ミラーリング(RAID 1)、ストライピング+ミラーリング(RAID 0+1)及び RAID 5 機能をサポート - 最大 300 MB/s のデータ転送速度対応 - ホットプラグ機能をサポート - 最大 4 つの SATA 3Gb/s 接続に対応 - Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
BIOS	◆ ライセンス済み AWARD BIOS の使用 ◆ デュアル BIOS/Q-Flash/多言語 BIOS をサポート
その他の機能	◆ @BIOS をサポート ◆ EasyTune 5^(注 1)をサポート
オーバークロック	◆ BIOS によりオーバークロック(FSB/DIMM/PCIE/CPU/ノースブリッジ/サウスブリッジ) ◆ BIOS によりオーバークロック(CPU/DIMM/PCIE)
フォームファクター	◆ ATX フォームファクタ(30.5cm x 24.4cm)

(注 1) EasyTune 5 機能はマザーボード別に異なる場合があります。

1-3 CPU とヒートシンクの取り付け



CPU を取り付ける前に、以下の手順に従ってください。

1. マザーボードが CPU をサポートすることを確認してください。
2. CPU の刻み目のある角に注目してください。CPU を間違った方向に取り付けると、適切に装着することが出来ません。装着できない場合は、CPU の挿入方向を変えてください。
3. CPU とヒートシンクの間にはヒートシンクペストを均等に塗布してください。
4. CPU のオーバーヒートおよび永久的損傷が生じないように、システムを使用する前に、ヒートシンクが CPU に適切に取り付けられていることを確認してください。
5. プロセッサ仕様に従い、CPU ホスト周波数を設定してください。周辺機器の標準規格に適合しないため、システムバス周波数をハードウェア仕様以上に設定しないことをお勧めします。仕様以上に周波数を設定する場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブ等を含むハードウェア仕様に従って設定してください。
6. CPU ファン速度は 3000rpm 以上をお勧めします。



ハイパースレディング機能に必要な条件:

ご使用のコンピュータシステムでハイパースレディングテクノロジーが有効となるには下記のプラットフォームコンポーネント条件を全て満たしている必要があります。

- CPU: ハイパースレディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ
- チップセット: ハイパースレディングテクノロジー対応 NVIDIA®チップセット
- BIOS: ハイパースレディングテクノロジー対応 BIOS およびその設定が有効になされる
- OS: ハイパースレディングテクノロジー対応の最適化機能を有するオペレーティングシステム

1-3-1 CPU の取り付け

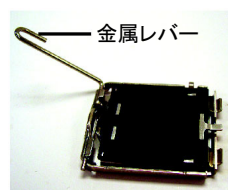


図 1

CPU ソケットに位置する金属レバーを垂直にゆっくり引き上げます。

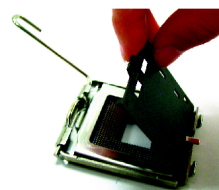


図 2

CPU ソケットのプラスチックカバーを外してください。

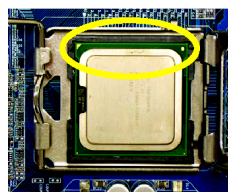


図 3

CPU ソケット端に位置する小さな金色の三角形に注目します。CPU の刻み目のある角を三角形に合わせ、



図 4

CPU が適切に挿入された後、ロードプレートを元に戻し、金属レバーを元の位置に押し戻します。

CPU を静かに装着します。(CPU を親指と 4 本の指でしっかりつかみ、直線的な下方動作でソケットに押し込みます。装着時に CPU の損傷を引き起こす可能性のある、ひねりや曲げ動作は避けてください。)

1-3-2 ヒートシンクの取り付け

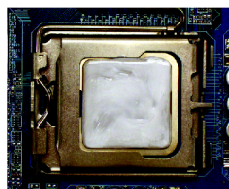


図 1
取り付けられた CPU 表面にヒートシンクペーストを均一に塗ります。

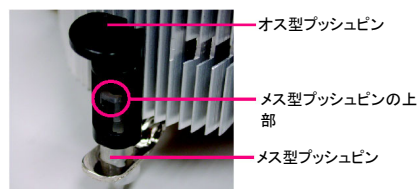


図 2
(ヒートシンクを取り外すには、プッシュピンを矢印方向に回し、取り付けるには反対方向に回します。)オス型プッシュピンの矢印の方向は、取り付け前に内側に向かないように注意してください(この手順は Intel ボックス入りファン専用です)。

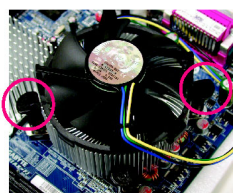


図 3
ヒートシンクを CPU の上にのせ、プッシュピンがマザーボード上のピン穴に向いているか確認します。プッシュピンを斜めに押し下げます。

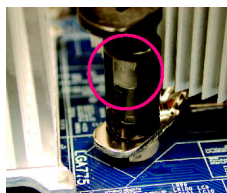


図 4
オス型とメス型プッシュピンが緊密に接合されているか確認します。(詳細な装着方法については、ユーザマニュアルのヒートシンク装着セクションを参照ください)

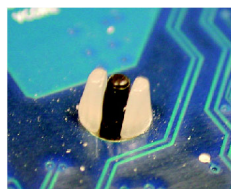


図 5
装着後にマザーボード背面をチェックしてください。プッシュピンが図のように挿入されていれば、装着は完了です。

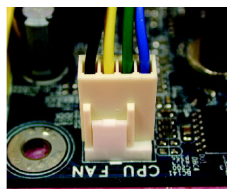


図 6
最後にヒートシンクの電源コネクタをマザーボードにある CPU ファンヘッダに接続します。



注

ヒートシンクペーストの硬化により、ヒートシンクが CPU に付着する場合があります。付着を防止するには、ヒートシンクペーストの代わりにサーマルテープを使用し、熱を発散させるか、またはヒートシンクを取外す際は慎重に行ってください。

1-4 Cool-Plus (ノースブリッジクーリングファン)のインストール/取り外し

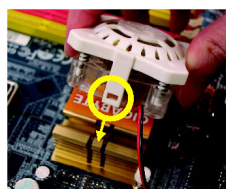


図 1
Cool-Plus をヒートシンクにインストールするには、下記の様にヒートシンクの溝に沿い、両側に向け拡張部を位置合わせしてください。正しい位置に填まるまで、しっかりと押し込んでください。

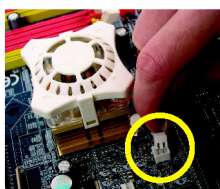


図 2
ファンをヒートシンクに正しく固定した後、電源ケーブルを NB_FAN コネクタに接続してください。

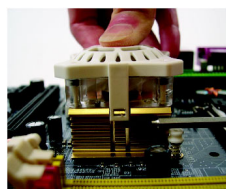


図 3
取り外す前に、ファンの電源ケーブルの接続を断ったことを確認してください。確認後、ファン上部を押しながら、片方の拡張部をスクロイドライバーを使い取り外してください。



注意 取り外す際にファンに過度の力を加えると、側面の拡張部が破損する恐れがあります。

1-5 メモリの取り付け

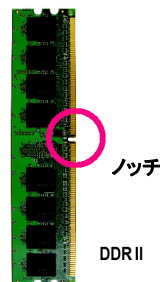
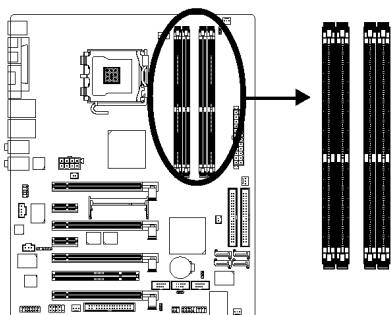


注意

メモリモジュールを取り付ける前に、以下の手順に従ってください。

1. ご使用のメモリがマザーボードにサポートされているかどうかを確認してください。同様の容量、仕様、および銘柄のメモリをご使用することをお勧めします。
2. ハードウェアへの損傷を防ぐため、メモリモジュールの取り付け/取り外し前に、コンピュータの電源を切ってください。
3. メモリモジュールは、きわめて簡単な挿入設計となっています。メモリモジュールは、一方向のみに取り付けることができます。モジュールを挿入できない場合は、方向を換えて挿入してください。

マザーボードは、DDR II メモリモジュールをサポートし、BIOS は自動的にメモリ容量と仕様を検出します。メモリモジュールは、一方向のみに挿入するように設計されています。各スロットには異なる容量のメモリを使用できます。



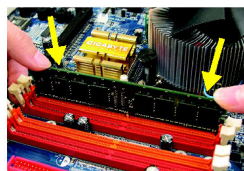


図 1

DIMM ソケットにはノッチがあり、DIMM メモリモジュールは一方方向のみに挿入する必要があります。DIMM メモリモジュールを DIMM ソケットに垂直に挿入し、押し下げてください。

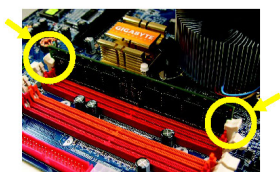


図 2

DIMM ソケットの両側にあるプラスチックのクリップを閉じて、DIMM モジュールを固定します。

DIMM モジュールを取り外すにはインストールと逆の手順で行います。

デュアルチャンネル DDR II

GA-8N-SLI QUAD Royal はデュアルチャンネルテクノロジーをサポートしています。デュアルチャンネルテクノロジーを使用すると、メモリバスのバンド幅は倍増されます。

デュアルチャンネルテクノロジーで操作したい場合は、以下の説明は Intel チップセット仕様の制限対象になることにご注意ください。



- 1 つまたは 3 つの DDR II メモリモジュールをインストールした場合、デュアルチャンネル機能は使用できません。
- 2 つまたは 4 つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを使用する場合も、同一ブランド、サイズ、チップおよび速度のメモリモジュールの使用をお勧めします。

2 つの DDR II メモリモジュールを同じ色の DIMM に挿入し、デュアルチャンネルテクノロジーを有効にすることを強く推奨します。

以下のテーブルは、デュアルチャンネル技術の組み合わせを示します。(DS: 両面実装、SS: 片面実装)

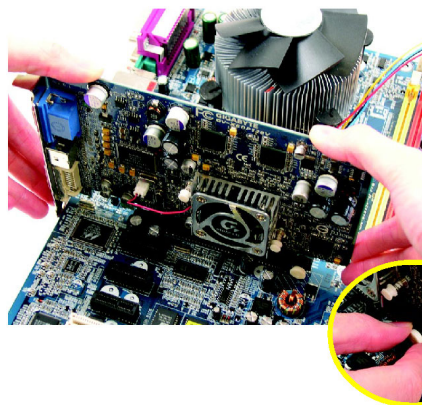
	DDR II 1	DDR II 2	DDR II 3	DDR II 4
2 枚のメモリモジュール	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
4 枚のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

1-6 拡張カードのインストール

以下の手順に従い、拡張カードを取り付けてください。

1. 拡張カードのインストールに先立ち、関連した指示説明をお読みください。
2. コンピュータからケースカバー、固定用ネジ、スロットブラケットを外します。
3. マザーボードの拡張スロットに拡張カードを確実に差しします。
4. カードの金属接点面がスロットに確実に収まったことを確認してください。
5. スロットブラケットのネジを戻して、拡張カードを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを戻します。
7. コンピュータの電源をオンにします。必要であれば BIOS セットアップから拡張カード対象の BIOS 設定を行います。
8. オペレーティングシステムから関連のドライバをインストールします。

PCI エクスプレス x 16 拡張カードを取り付ける。



注意

PCI カードの装着/取り外し時には、エクスプレス x 16 スロット端の小さい白色の取り外しバーを注意深く引いてください。VGA カードをオンボード PCI エクスプレス x 16 スロットにそろえ、スロットに確実に押し込んでください。ご使用になる VGA カードが小さな白いバーによってロックされたことを確認してください。

1-7 SLI (Scalable Link Interface)構成の設定

nVIDIA® nForce 4 SLI Intel Edition チップセットは 2 基の NVIDIA SLI-対応 PCI Express™グラフィックカードをブリッジする能力を持ち、劇的なグラフィック性能を誇ります！SLI 設計は PCI Express™バスアーキテクチャの拡張された帯域を利用し、NVIDIA GPU (Graphics Processing Unit)及び nVIDIA® nForce 4 SLI Intel Edition チップセットのハードウェア及びソフトウェアによる革新を実現しています。NVIDIA SLI テクノロジーはシームレスに 2 基のグラフィックカードを並列に動作させ、負荷をシェアすることで驚くべき PC 性能を発揮します。このセクションでは GA-8N-SLI QUAD Royal マザーボード上に SLI システムを構成する手順を紹介します。

1-7-1 操作の準備

I. コンポーネントの理解:

□ SLI ブリッジコネクタ(GC-SLICON)

GC-SLICON は SLI 構成を実現する為に、2 基の SLI 機能付きグラフィックスカードをブリッジするために使用されます。



□ SLI スイッチモジュール(GC-SLISW-C19)

GC-SLISW-C19 スイッチモジュールは工場出荷時状態として SLI スイッチモジュールソケットに取り付けられています。SLI スイッチモジュールは両側に金色のエッジコネクタを持ちます。一方は SLI モードであり、他方はノーマルモードです。



□ SLI スイッチモジュール(GC-SLISW-3D1)

このマザーボードに GIGABYTE GV-3D1 グラフィックスカードを取り付けたい場合、GC-SLISW-3D1 スイッチモジュールを 3D1 Mode 方向に挿入する必要があります。
(ノーマルモードは GC-SLISW-C19 モジュールの場合と同じです。)



両方の PCIE x 16 スロットが利用不可能になるため、SLI スイッチモジュール (GC-SLISW-C19 または GC-SLISW-3D1)をマザーボードから取り外すことはお勧めしません。

II. 電源要求:

取り付け前に、使用している電源が SLI 構成及びシステムの他のコンポーネントを完全サポートするための十分な電力を供給可能なことを確認してください。電源は少なくとも 20A 5V と 12V 電流及び最小で 500W を供給できることをお勧めします。正確な電力要件はシステム構成全体によって異なる点にご注意ください。

III. オペレーティングシステム対応:

現在のところ NVIDIA SLI は、Windows XP オペレーティングシステムのみをサポートしています。

注: GA-8N-SLI QUAD Royal の SLI は、多様なビデオ出力の組み合わせをサポートするため、このガイドの「性能の最適化」または「推奨リスト」の組み合わせに従うことをお勧めします。

SLI モードの有効化--

SLI スイッチモジュールの設定:

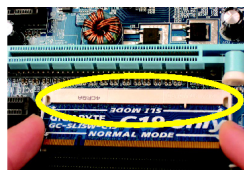
スイッチモジュール(GC-SLISW-C19) は工場出荷時状態として、ノーマルモード方向に取り付けられています。システムの SLI モードを有効にするためのまずは、モジュールをソケットから取り外してから回転させ、SLI モード方向で挿入することです。

ステップ 1: ソケットの保持クリップを静かに広げ、モジュールをソケットから外せるようにします。モジュールの端を持ち上げ、ソケットから取り外します。

ステップ 2: モジュールの SLI モード側をソケットに対し 25 度角で配置します。モジュールの上部エッジにある小さなノッチをソケットの鍵に揃えます。

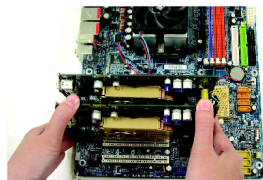
ステップ 3: モジュールの上部エッジをソケットに挿入します。金色のエッジコネクタが完全に挿入されたことを確認します。

ステップ 4: モジュールの両端がソケットクリップによりしっかり固定されるまで静かに押し下げます。(モジュールが取り付けられた時点で、カチッと音がするはずです。)

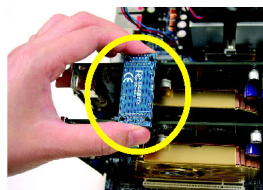


2 基のグラフィックカードの取り付け:

ステップ 1: 16 ページの「1-6 拡張カードのインストール」を参考にし、2 基の同一モデルの SLI-対応グラフィックカードを PCIEX16_1 (SLOT2)及び PCIEX16_2 (SLOT3)スロットにインストールします。



ステップ 2: SLI ブリッジ(GC-SLICON)を両カード上部の SLI 金色エッジコネクタに挿入します。ブリッジコネクタ上の 2 つの小型スロット(メス)が両カードの SLI 金色エッジコネクタにしっかり固定されたことを確認します。

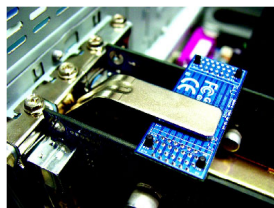


ブリッジコネクタのスロット(メス)

グラフィックカード上部の金色エッジコネクタ



ステップ 3: 2 枚のカード間のブリッジコネクタをしっかり固定するため、マザーボード付属のリテンションブラケットを取り付け、リテンションブラケットをネジでシャーシのバックパネルに固定する必要があります。

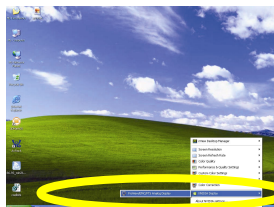


リテンションブラケット

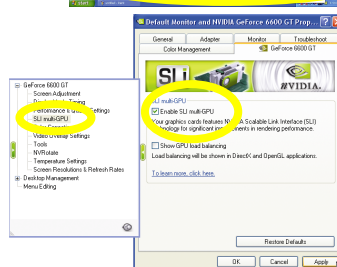
この部分をブリッジコネクタのトップ位置に配置します。

グラフィックカードのドライバ設定:

ステップ 1: オペレーティングシステムにグラフィックカードドライバをインストールした後、システムトレイの NVIDIA アイコンを右クリックし、**NVIDIA Display** を選択します。NVIDIA コントロールパネルが表示されます。



ステップ 2: サイドメニューより**SLI multi-GPU**を選択し、**SLI multi-GPU ダイアログボックスの Enable SLI multi-GPU チェックボックス**を選択します。**Apply** をクリックし、システムを再起動します。以上で SLI 設定は完了です。



1-7-2 SLI 応用の組み合わせ

SLI 機能を有効にするため、BIOS 設定とグラフィックカードが以下条件に準拠することを確認してください。

条件 1: SLI 機能は同一ブランドの同一チップのグラフィックカードを使用する必要があります。

(例: GIGABYTE GV-NX66T128D)。

条件 2: BIOS セットアップで PCIe16 Slot Lanes を“Auto”に設定します。

(55 ページをご参照ください)。

	ノースブリッジ		サウスブリッジ		NB SLI スイッチ モジュール	VGA ドライ バ SLI 有効	SLI モード	ビデオ出 力(倍り)	注釈
	PCIEX8_1 (スロット 1)	PCIEX16_1 (スロット 1)	PCIEX16_2 (スロット 3)	PCIEX8_2 (スロット 4)					
組み合わせ 1		nVidia (x16)	nVidia (x16)		GC-SLISW-C19 (ノーマル モード)	はい	X16-x16 (NB+SB)	2	性能の 最適化
組み合わせ 2	nVidia (x8)	nVidia (x8)			GC-SLISW-C19 (SLI モード)	はい	X8-x8 (NB)	2	
組み合わせ 3			nVidia (x8)	nVidia (x8)	無関係	はい	X8-x8 (SB)	2	

注 1. ビデオ出力品質はグラフィックカードに基づきます。



注意

nVidia ドライバの制限により、2 枚以上の nVidia グラフィックカードを取り付けた場合、SLI 機能は使用されません。

1-7-3 グラフィックカード対応リスト

(以下のアイテムはすべて Windows XP オペレーティングシステムでサポートされています。)



注

以下のグラフィックカード対応は参考としてのみです。

市場には大量のグラフィックカードが出回っているため、一部分の検証のみ可能です。以下に表示されていないグラフィックカードはこのマザーボードで未対応であることを意味するものではありません。

より詳細な対応リストに関しては、Gigabyte のウェブサイト <http://www.gigabyte.com.tw> にアクセスしてください。

図 1-1. 組み合わせ 1 (サウスブリッジ+ノースブリッジの 2 基のスロット)

グラフィック スチップ	メーカー	モデル名	GPU
Nvidia	Gigabyte	* GV-NX66T128D	Geforce 6600GT (NV43GT)
	Gigabyte	* GV-NX68T256DH	Geforce 6800GT (NV45GT)
	Gigabyte	* GV-NX68U256D	Geforce 6800 Ultra (NV45 Ultra)
	Gigabyte	GV-3D1	Geforce 6600GT x 2
	Gigabyte	* GV-NX68256D	Geforce 6800
	Gigabyte	GV-NX78X256V-B	Geforce 7800GTX
	Gigabyte	* GV-NX78T256V-B	Geforce 7800GT

注: “*” マーク付きの上記モデルは、nVidia ドライバの制限により、S1 スタンバイからの復帰時にディスプレイ関連の問題が発生する可能性があります。

図 1-2. 組み合わせ 2 (ノースブリッジの 2 基の-slot)

グラフィック ステップ	メーカー	モデル名	GPU
Nvidia	Gigabyte	GV-NX66T128D	Geforce 6600GT (NV43GT)
	Gigabyte	GV-NX68T256DH	Geforce 6800GT (NV45GT)
	Gigabyte	GV-NX68U256D	Geforce 6800 Ultra (NV45 Ultra)
	Gigabyte	GV-3D1	Geforce 6600GT x 2
	Gigabyte	GV-NX68256D	Geforce 6800
	Gigabyte	GV-NX78X256V-B	Geforce 7800GTX
	Gigabyte	GV-NX78T256V-B	Geforce 7800GT

図 1-3. 組み合わせ 3 (サウスブリッジの 2 基の-slot)

グラフィック ステップ	メーカー	モデル名	GPU
Nvidia	Gigabyte	GV-NX66T128D	Geforce 6600GT (NV43GT)
	Gigabyte	GV-NX66T256DH	Geforce 6800GT (NV45GT)
	Gigabyte	GV-NX68U256D	Geforce 6800 Ultra (NV45 Ultra)
	Gigabyte	GV-3D1	Geforce 6600GT x 2
	Gigabyte	GV-NX68256D	Geforce 6800
	Gigabyte	GV-3D1-68GT	Geforce 6800GT x 2
	Gigabyte	GV-NX78T256V-B	Geforce 7800GT

1-8 Multi View システムの設定

この機能は Windows XP オペレーティングシステムでのみサポートされます。
GIGABYTE の Multi View 技術により、Quad Graphic はマザーボードの最大 8 台のモニターによるマルチ表示を実現します。複数のウィンドウを 8 台のモニターに拡散し、同時に表示することにより、ユーザの能力と生産性を向上させることが可能です。



マルチ表示のサポートで生産性向上



マルチ表示のサポートで臨場感あふれるビデオ/ゲーム体験

操作の準備-

- I. 電源要求:
実際に必要な電力は全体的なシステム設定に依存します。ご使用のシステムおよび 2 枚のグラフィックスカードに必要な十分の安定した電力が提供できる電源をご使用ください。推奨電源は 500W(またはそれ以上)および 25A(またはそれ以上) +12V の定格です。
- II. バージョン 7.7.7.2 以降の NVIDIA ビデオドライバを使用してください。

1-8-1 Multi View 応用の組み合わせ

Multi View 機能は BIOS セットアップ項目を条件に設定する必要があります。

条件 1: BIOS セットアップ項目で PClex16 Slot Lanes を"Auto"に設定します。
(55 ページをご参照ください)。

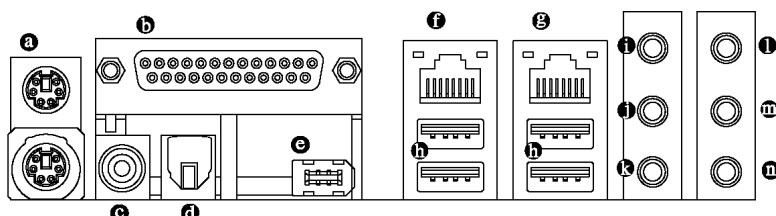
ノースブリッジ		サウスブリッジ		NB SLI スイッチ モジュール	VGA ドライバ SLI 有効	SLI モード	ビデオ出力 (注 1)	注釈
PCIEX8_1 (スロット 1)	PCIEX16_1 (スロット 2)	PCIEX16_2 (スロット 3)	PCIEX8_2 (スロット 4)					
nVidia/ATI(x8)	nVidia/ATI(x8)	nVidia/ATI(x8)	nVidia/ATI(x8)	GC-SLISW-C19 (SLI モード)	いいえ	N/A	8	推奨

1-8-2 グラフィックカード対応リスト

図 1-1. サウスブリッジ+ノースブリッジの 4 基のスロット

グラフィック スチップ	メーカー	モデル名	GPU
Nvidia ATI	Gigabyte Gigabyte	GV-NX78X256V-B x2 GV-RX60P128DE x2	Geforce 7800GTX Radeon X600Pro

1-9 I/O 後部パネルの紹介



a PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスコネクタ

PS/2 ポートキーボードとマウスを接続するには、マウスを上部ポート(緑色)に、キーボードを下部ポート(紫色)に差し込んでください。

b パラレルポート

パラレルポートは、プリンタ、スキャナ、および他の周辺装置に接続することができます。

c 同軸(SPDIF_RCA)

SPDIF 同軸出力ポートは同軸ケーブルを通じて、デジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。

d 光(SPDIF_O)

SPDIF 光出力ポートは光ケーブルを通じて、デジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。

e IEEE1394 ポート

IEEE1394 機器をこのコネクタに接続します。

f LAN ポート 2

インターネット接続は、Gigabit イーサネットであり、10/100/1000Mbps のデータ転送速度が提供されます。

g LAN ポート 1

インターネット接続は、Gigabit イーサネットであり(PCI エクスプレス Gigabit)、10/100/1000Mbps のデータ転送速度が提供されます。

h USB ポート

USB コネクタに USB キーボード、マウス、スキャナー、zip、スピーカーなどを接続する前に、ご使用になるデバイスが標準の USB インタフェースを装備していることをご確認ください。またご使用の OS が USB コントローラをサポートしていることもご確認ください。ご使用の OS が USB コントローラをサポートしていない場合は、OS ベンダーに利用可能なパッチやドライバの更新についてお問い合わせください。詳細はご使用の OS やデバイスのベンダーにお問い合わせください。

i ライン入力

CD-ROM やウォークマンなどはライン入力ジャックに接続できます。

j ライン出力(フロントスピーカー出力)

ステレオスピーカー、イヤホンまたはフロントサラウンドスピーカーをこのコネクタに接続してください。

k マイク入力

マイクロホンは MIC 入力ジャックに接続します。

l リアスピーカー出力

リアサラウンドスピーカーをこのコネクタに接続してください。

㊦ センター/サブウーファースピーカー出力

センター/サブウーファースピーカーをこのコネクタに接続してください。

㊧ サイドスピーカー出力

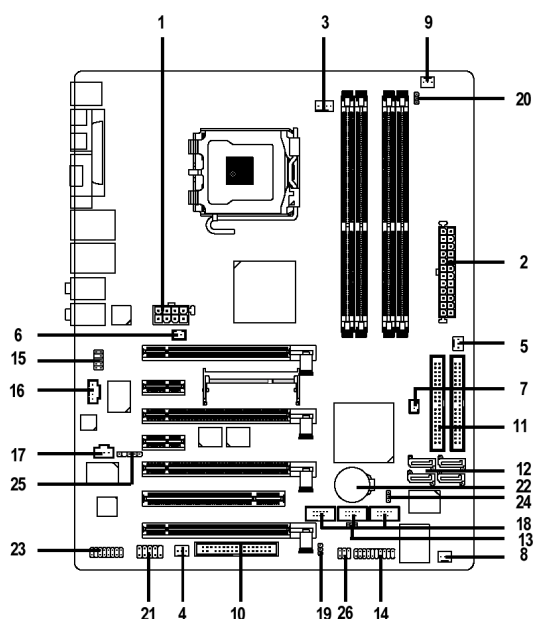
サイドサラウンドスピーカーをこのコネクタに接続してください。



オーディオソフトを使用し、2-/4-/6-/8-チャンネルの音声機能を設定することができます。

注

1-10 コネクタはじめに



1) ATX_12V	14) F_PANEL
2) ATX (Power Connector)	15) F_AUDIO
3) CPU_FAN	16) CD_IN
4) SYS_FAN	17) SPDIF_IN
5) PWR_FAN	18) F_USB1 / F_USB2 / F_USB3
6) NB_FAN	19) FUSB_PSEL
7) SB_FAN	20) RUSB_PSEL
8) AUX_FAN	21) COMA
9) MAN_FAN	22) BATTERY
10) FDD	23) 1394_CON
11) IDE1 / IDE2	24) CLR_CMOS
12) SATA0/1/2/3	25) IR
13) PWR_LED	26) RF_ID

1/2) ATX_12V/ATX (電源コネクタ)

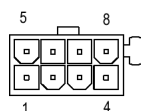
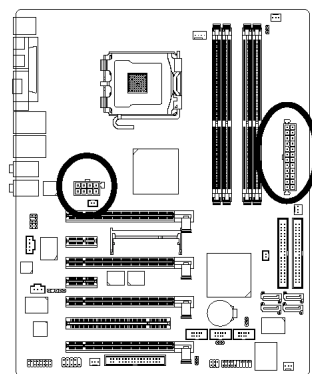
電源コネクタの使用により、安定した十分な電力をマザーボードのすべてのコンポーネントに供給することができます。電源コネクタを接続する前に、すべてのコンポーネントとデバイスが適切に取り付けられていることを確認してください。電源コネクタをマザーボードにしっかり接続してください。

ATX_12V 電源コネクタは、主に CPU に電源を供給します。ATX_12V 電源コネクタが適切に接続されていない場合、システムは作動しません。

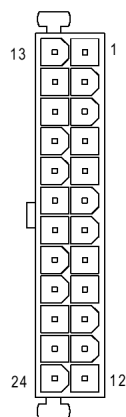
注意！

システムの電圧規格に適合するパワーサプライを使用してください。高電力消費(350W 以上)に耐え得る電源をご使用することをお勧めします。必要な電力を提供できないパワーサプライを使用される場合、結果として不安定なシステムまたは起動ができないシステムになります。

24 ピン ATX 電源を使用する場合、電源コネクタ上のカバーを取り外し電源コードを接続してください。それ以外の使用時はカバーをはずさないでください。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	GND
4	GND
5	+12V
6	+12V
7	+12V
8	+12V



ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	+5V
5	GND
6	+5V
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	+12V
12	3.3 V (24 ピン ATX のみ)
13	3.3V
14	-12V
15	GND
16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
17	GND
18	GND
19	GND
20	-5V
21	+5V
22	+5V
23	+5V
24	GND

3/4/5) CPU_FAN / SYS_FAN / PWR_FAN (クーラーファン電源コネクタ)

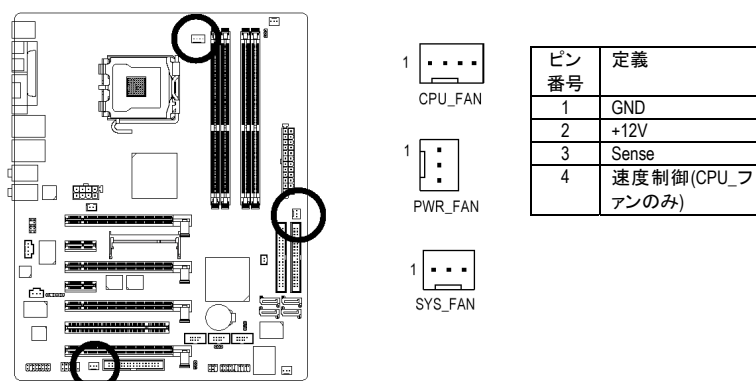
クーラーファン電源コネクタは、3ピン/4ピン(CPUファン専用)電源コネクタ経由で+12V電圧を供給し、接続が誰でも簡単にできるよう設計されています。

ほとんどのクーラーには、色分けされた電源コネクタワイヤが装備されています。赤色電源コネクタワイヤは、正極の接続を示し、+12V電圧を必要とします。黒色コネクタワイヤは、アース線(GND)です。

システムのオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、クーラーに電源を接続してください。

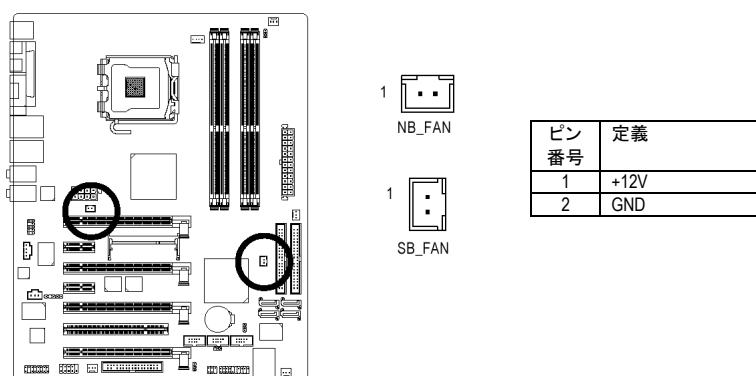
注意！

CPUのオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、CPUファンに電源を接続してください。



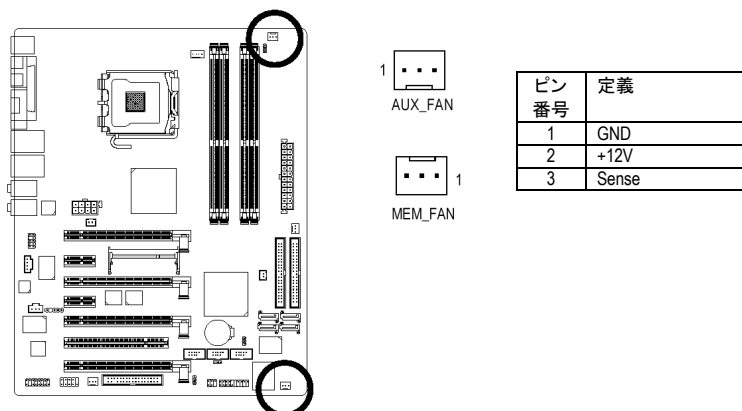
6/7) NB_FAN / SB_FAN (チップファン電源コネクタ)

間違った方向に接続すると、チップファンは動作しません。チップファンの故障の原因となります。(通常黒いケーブルは接地用 GND です)



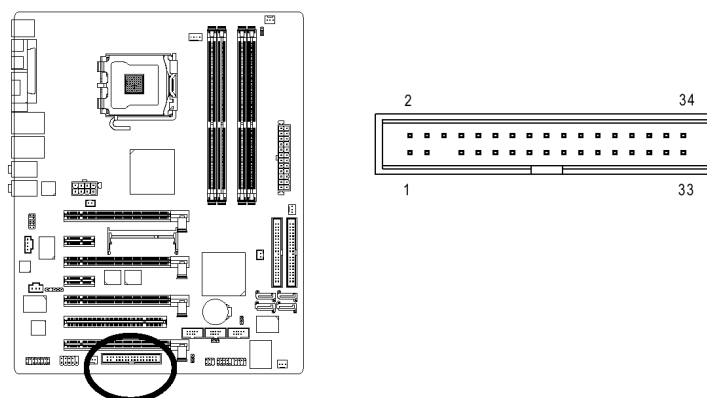
8/9)AUX_FAN / MEM_FAN (チップファン電源コネクタ)

間違った方向に接続すると、チップファンは動作しません。チップファンの故障の原因となります。(通常黒いケーブルは接地用 GND です)



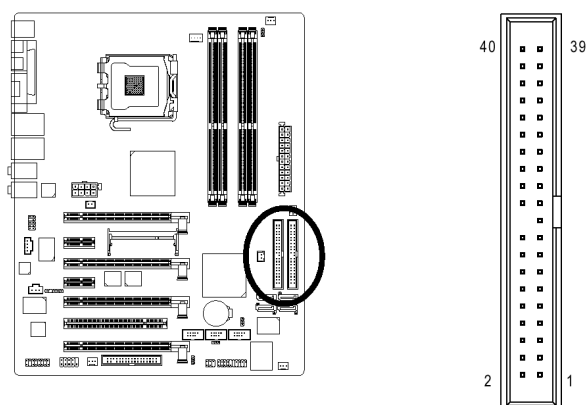
10) FDD (フロッピーコネクタ)

FDD コネクタは、FDD ケーブルの接続に使用し、もう一端は FDD ドライブに接続します。対応 FDD ドライブの種類は以下の通りです: 360KB、720KB、1.2MB、1.44MB および 2.88MB。赤色電源コネクタワイヤをピン 1 位置に接続してください。



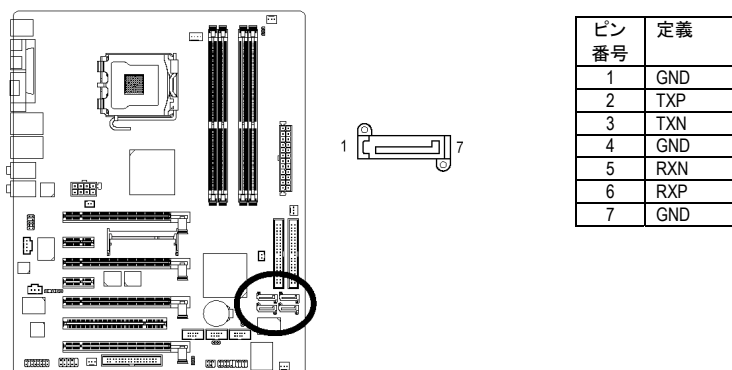
11) IDE1 / IDE2 (IDE コネクタ)

IDE デバイスは IDE コネクタによりコンピュータに接続します。1 つの IDE コネクタには 1 本の IDE ケーブルを接続でき、1 本の IDE ケーブルは 2 台の IDE デバイス(ハードドライブや光学式ドライブ)に接続できます。2 台の IDE デバイスを接続する場合は、一方の IDE デバイスのジャンパをマスターに、もう一方をスレーブに設定します(設定の情報は、IDE デバイスの指示を参照ください)。



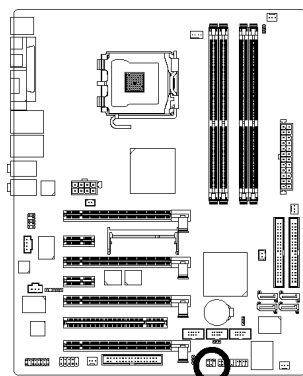
12) SATA0/1/2/3 (SATA 3Gb/s コネクタ、CK804 によりコントロール)

SATA 3Gb/s は、最大 300MB/秒の転送速度を提供することができます。正しく動作させるため、SATA 3Gb/s の BIOS 設定を参照し、適切なドライバをインストールしてください。



13) PWR_LED

PWR_LED はシステム電源表示ランプに接続してシステムのオン/オフを表示します。システムがサスペンドモードになると点滅します。

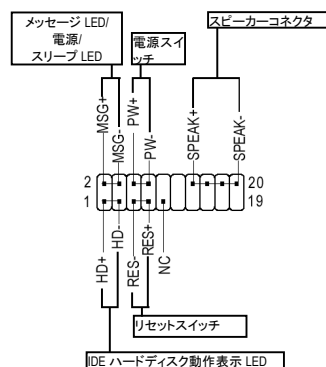
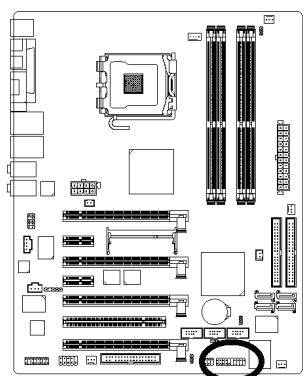


1 ■■■

ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

14) F_PANEL (フロントパネルジャンパ)

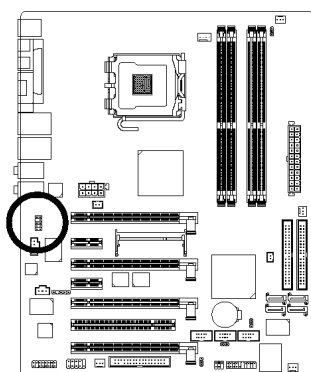
ご使用のケースのフロントパネルにある電源 LED、PC スピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを以下のピン配列にしたがって、F_PANEL に接続します。



HD (IDE ハードディスク動作表示 LED) (青)	ピン 1: LED 正極(+) ピン 2: LED 負極(-)
SPEAK (スピーカーコネクタ) (アンバー)	ピン 1: 電源 ピン 2-ピン 3: NC ピン 4: Data (-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	オープン: 通常 ショート: ハードウェアシステムのリセット
PW (電源スイッチ) (赤)	オープン: 通常 ショート: 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED) (黄色)	ピン 1: LED 正極(+) ピン 2: LED 負極(-)
NC (紫)	NC

15) F_AUDIO (フロントオーディオコネクタ)

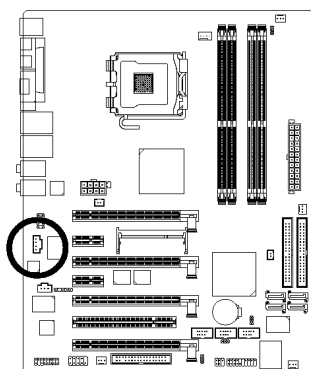
フロントオーディオコネクタを使用したい場合、5-6、9-10 ジャンパを取り外す必要があります。フロントオーディオヘッダを利用するには、シャーシにフロントオーディオコネクタが備わっている必要があります。またケーブルのピン配列が MB ヘッダのピン配列と同一であることを確認してください。購入するシャーシがフロントオーディオコネクタに対応しているかどうかは、販売店にお問い合わせください。フロントオーディオコネクタまたはリアオーディオコネクタの何れかを使用してサウンドを再生できる点にご注意ください。



ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC_BIAS
4	電源
5	フロントオーディオ(R)
6	リアオーディオ(R)/リターン R
7	NC
8	ピンなし
9	フロントオーディオ(L)
10	リアオーディオ(L)/リターン L

16) CD_IN (CD 入力)

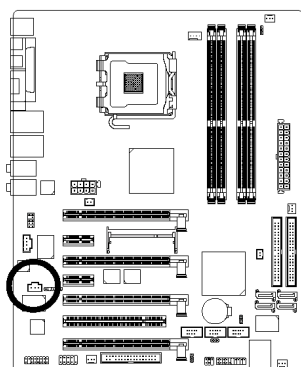
CD-ROM または DVD-ROM のオーディオ出力はこのコネクタに接続します。



ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

17) SPDIF_IN (SPDIF 入力)

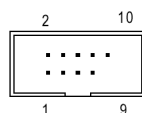
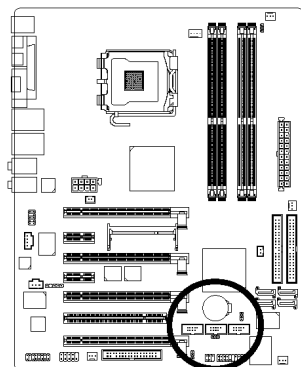
お使いの機器がデジタル出力機能を持つ場合のみ SPDIF IN を使用してください。
SPDIF_IN コネクタの極性にご注意ください。SPDIF ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の SPDIF ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン 番号	定義
1	電源
2	SPDIF I
3	GND

18) F_USB1 / F_USB2 / F_USB3 (フロント USB コネクタ)

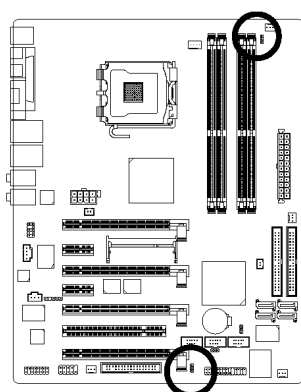
フロント USB コネクタの極性にご注意ください。フロント USB ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備のフロント USB ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン 番号	定義
1	電源(5V)
2	電源(5V)
3	USB DX-
4	USB Dy-
5	USB DX+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

19/20) RUSB_PSEL / FUSB_PSEL

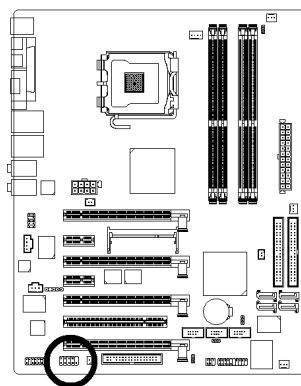
これら 2 つのジャンパでリア&フロント USB デバイスの電源を選択します。
ノーマル 5V(ジャンパを 1-2 に設定)及びスタンバイ 5V(ジャンパを 2-3 に設定)が利用可能です。
スタンバイ 5V を選択した場合、USB デバイスからシステムのウェイクアップを行うことができます。



ピン番号	定義
短く 1-2 回	ノーマル 5V
短く 2-3 回	スタンバイ 5V

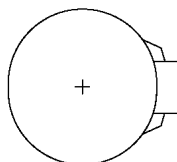
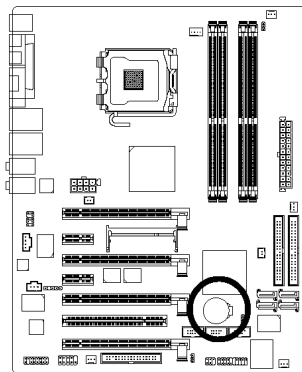
21) COMA (シリアルポートコネクタ)

COMA コネクタの極性にご注意ください。COMA ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。
ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。
オプション装備の COMA ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	NDCDA-
2	NSINA
3	NSOUTA
4	NDTRA-
5	GND
6	NDSRA-
7	NRTSA-
8	NCTSA-
9	NRIA-
10	ピンなし

22) BAT (バッテリー)



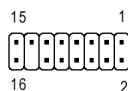
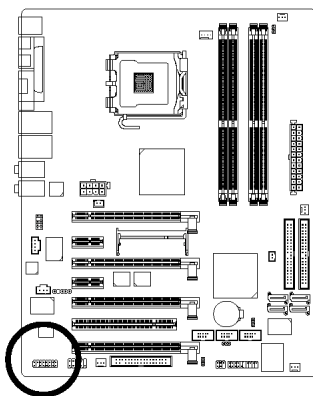
- ❖ バッテリーの交換を間違えると爆発の危険があります。
- ❖ メーカー推奨と同一のタイプの物と交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーはメーカーの指示に従って廃棄してください。

CMOS 内容を消去するには、下記の手順を行なってください。

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します。
(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で1分間ほどショートさせます)。
3. バッテリーを入れなおします。
4. 電源コードのプラグを差し、コンピュータをオンにします。

23) 1394 CON (IEEE 1394 コネクタ)

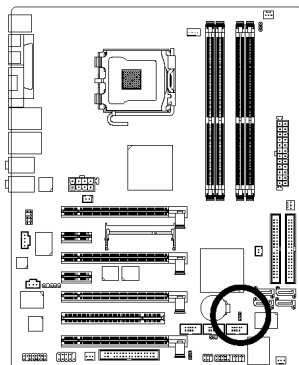
電気電子学会で制定されたシリアルインターフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めにはトルの販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源(12V)
2	電源(12V)
3	TPA1+
4	TPA1-
5	GND
6	GND
7	TPB1+
8	TPB1-
9	電源(12V)
10	電源(12V)
11	TPA2+
12	TPA2-
13	GND
14	ピンなし
15	TPB2+
16	TPB2-

24) CLR_CMOS (CMOS クリア)

このヘッダにより、CMOS データをクリアしてデフォルト値に復元できます。CMOS のクリアには一時的に 1-2 番ピンをショートさせます。デフォルトではこのヘッダの不適切な使用を防ぐために、ジャンパーはありません。

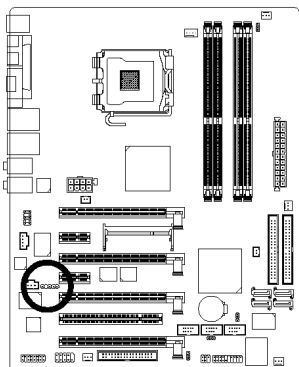


1-2 ショート: CMOS のクリア

2-3 ショート: 一般(デフォルト値)

25) IR

IR を接続する際は、IR コネクタの極性にご注意ください。オプションの IR デバイスの購入に関しては、最寄の販売店にお問合せください。

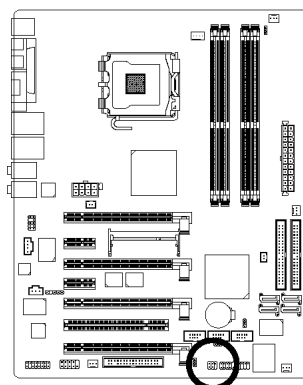


1-5

ピン番号	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	IR RX
4	GND
5	IR TX

26) RF_ID

このコネクタに拡張機能を備えた外部デバイスを接続できます。外部デバイスケーブルを接続する前に、ピン配置を確認してください。オプションの GIGABYTE 外部デバイスについては、お近くの販売店にお問い合わせください。



ピン 番号	定義
1	電源
2	RFID_RI-
3	RF_TXD
4	RF_RXD
5	NC
6	GND

第 2 章 BIOS のセットアップ

BIOS (Basic Input and Output System)には、ユーザが必要とする基本設定を設定可能、または特定のシステム機能を有効にする CMOS SETUP ユーティリティが含まれています。
CMOS SETUP は、マザーボードの CMOS SRAM に設定を保存します。
電源が OFF になると、マザーボードのバッテリーは必要な電源を CMOS SRAM に供給します。
電源を ON にし、BIOS POST (Power-On Self Test)中にボタンを押すと、CMOS SETUP 画面に入ることが出来ます。“Ctrl+F1”を押すと、BIOS SETUP 画面に入ることができます。
初めて BIOS を設定する際、BIOS を元の設定にリセットする必要がある場合に備えるために、ディスクに現在の BIOS 設定を保存することをお勧めします。新しい BIOS にアップグレードする場合は、Gigabyte の Q-Flash、または@BIOS ユーティリティのどちらかを使用することができます。
Q-Flash により、OS に入ることなく、ユーザは、高速かつ容易に BIOS の更新、またはバックアップを行うことができます。@BIOS は、BIOS をアップグレードする前に、DOS へのブートを必要とせず、インターネットから BIOS を直接ダウンロード/更新できる、Windows ベースのユーティリティです。

制御用キー

<↑><↓><←><→>	選択項目に進む
<Enter>	項目の選択
<Esc>	メインメニュー—CMOS Status Page Setup Menu と Option Page Setup Menu を変更せずに終了—現在のページを終了し、メインメニューに戻る
<Page Up>	数値を増加または変更
<Page Down>	数値を減少または変更
<F1>	一般のヘルプ、Status Page Setup Menu および Option Page Setup Menu のみを対象
<F2>	項目のヘルプ
<F3>	言語選択
<F5>	CMOS を前の CMOS 設定に戻す、Option Page Setup Menu のみを対象
<F6>	BIOS デフォルトテーブルからフェイルセーフ デフォルト CMOS 設定値をロード
<F7>	最適デフォルト値をロード
<F8>	デュアル BIOS/Q-Flash ユーティリティ
<F9>	システム情報
<F10>	CMOS 変更を全て保存、メインメニューのみを対象

メインメニュー

ハイライト表示された設定機能のオンライン説明がスクリーン下部に表示されます。

Status Page Setup メニュー/Option Page Setup メニュー

<F1>を押すとハイライト表示された項目に使用可能なキーおよび可能な選択内容が小さなウィンドウに表示されます。ヘルプウィンドウを閉じるには<Esc>を押します。



注意

BIOS の書き換えは潜在的な危険性が存在するため、実行には注意を払い、システム故障につながる不正な操作を避けてください。

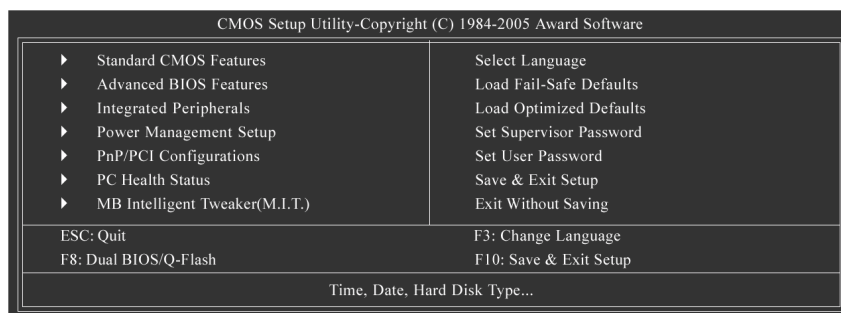


注

本章で述べる BIOS 設定は参考用途のみを想定しており、お手元のマザーボードの実際の設定とは異なることがあります。

メインメニュー(例: BIOS Ver.: F1)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、画面にメインメニュー(下図に参照)が表示されます。矢印キーで項目を選び<Enter>を押して決定、またはサブメニューに進みます。



注

必要な設定項目が見当たらない場合は、「Ctrl+F1」を押して詳細設定を展開してください。システムがなんらかの原因で不安定になった場合は BIOS から Load Optimized Defaults (最適化デフォルト値のロード)を行ってください。これでシステムは初期の安定した状態に戻ります。

- **Standard CMOS Features**
この設定ページには標準互換 BIOS 内の項目全部が含まれています。
- **Advanced BIOS Features**
この設定ページには Award 専用拡張機能の項目全部が含まれています。
- **Integrated Peripherals**
この設定ページにはオンボードペリフェラル項目が全て含まれています。
- **Power Management Setup**
この設定ページには節電機能関連項目が全て含まれています。
- **PnP/PCI Configuration**
この設定ページには PCI およびプラグアンドプレイ ISA リソースの設定項目が全て含まれています。
- **PC Health Status**
この設定ページは、システムにより自動検出された温度、電圧、ファン速度が表示されます。
- **MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)**
この設定ページは CPU クロックおよびクロックレシオを調節するものです。
- **Select Language**
この設定ページでは使用言語を指定します。

- **Load Fail-Safe Defaults**
Fail-Safe Defaults はシステムが安定動作する設定値を表示します。
- **Load Optimized Defaults**
Optimized Defaults はシステムが最良の性能で動作する設定値を表示します。
- **Set Supervisor Password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムおよびセットアップ、またはセットアップのみへのアクセスを制限します。
- **Set User Password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムへのアクセスを制限します。
- **Save & Exit Setup**
CMOS 設定値を CMOS に保存し、セットアップを終了します。
- **Exit Without Saving**
CMOS 設定値を全てキャンセルし、セットアップを終了します。

2-1 Standard CMOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software
Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)	Tue, Mar 15 2005	Item Help
Time (hh:mm:ss)	14:42:37	Menu Level▶
▶ IDE Channel 0 Master	[None]	Change the day, month, year
▶ IDE Channel 0 Slave	[None]	<Week>
▶ IDE Channel 1 Master	[None]	Sun. to Sat.
▶ IDE Channel 1 Slave	[None]	<Month>
▶ IDE Channel 2 Master	[None]	Jan. to Dec.
▶ IDE Channel 3 Master	[None]	<Day>
▶ IDE Channel 4 Master	[None]	1 to 31 (or maximum allowed in the month)
▶ IDE Channel 5 Master	[None]	<Year>
Drive A	[1.44M, 3.5"]	1999 to 2098
Drive B	[None]	
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	
Base Memory	640K	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F7: Optimized Defaults

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software
Integrated Peripherals

Extended Memory	511M	Item Help
Total Memory	512M	Menu Level▶

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F7: Optimized Defaults

☞ Date

日付のフォーマットは<曜日>、<月>、<日>、<年>です。

- ▶▶ Week 日曜から土曜までの曜日は BIOS で設定され、表示用のみです
- ▶▶ Month 月は 1 月から 12 月までです。
- ▶▶ Day 日は 1 から 31 (またはその月に存在する日数)までです
- ▶▶ Year 年は 1999 から 2098 までです

☞ Time

時刻のフォーマットは<時> <分> <秒>です。時刻は 24 時間制です。例えば午後 1 時は 13:00:00 となります。

☞ IDE Channel 0 Master, Slave, IDE Channel 1 Master, Slave

- ▶▶ IDE HDD Auto-Detection 自動デバイス検出を行うため、“Enter”を押してこのオプションを選択します。
- ▶▶ IDE Device Setup. 3つの方法の中から1つを選択してください：
 - Auto POST中に、BIOSがIDEデバイスを自動検出することを可能にします(デフォルト)
 - None IDEデバイスを使用していない場合は、これを選択してください。システムは、自動検出手順をスキップし、より速いシステム起動が可能となります。
 - Manual ユーザは、手動で正しい設定を入力することができます
- ▶▶ Access Mode ハードドライブのアクセス・モードを設定します。4つのオプションは以下の通りです。CHS/LBA/Large/Auto (デフォルト: Auto)

☞ IDE Channel 2/3/4/5 Master

- ▶▶ IDE HDD 自動検出 自動デバイス検出を行うため、“Enter”を押してこのオプションを選択します。
- ▶▶ 拡張 IDE およびドライブ SATA デバイスセットアップ。2つの方法の中から1つを選択してください：
 - Auto POST中に、BIOSがSATA IDEデバイスを自動検出することを可能にします。(デフォルト値)
 - None SATA IDEデバイスを使用していない場合は、これを選択してください。システムは、自動検出手順をスキップし、より速いシステム起動が可能となります。
- ▶▶ Access Mode ハードドライブのアクセス・モードを設定します。2つのオプションは以下の通りです。Large/Auto (デフォルト: Auto)
- ▶▶ Capacity 装着済みのハードディスク容量。
ハードドライブ情報は、ドライブケースの外側にラベルされています。この情報に基づき、適切なオプションを入力してください。
- ▶▶ Cylinder シリンダ数
- ▶▶ Head ヘッド数
- ▶▶ Precomp ライト・プリコンペンセーション
- ▶▶ Landing Zone ランディングゾーン
- ▶▶ Sector セクタ数

☞ Drive A / Drive B

この項目はコンピュータにインストールされたフロッピードライブ A またはドライブ B のタイプを設定します。

- ▶▶ None フロッピードライブはインストールされていません。
- ▶▶ 360K, 5.25" 5.25 インチ PC 内蔵標準ドライブ; 容量は 360K バイト。
- ▶▶ 1.2M, 5.25" 5.25 インチ AT タイプ高密度ドライブ; 容量は 1.2M バイト。
(3 モードが有効の場合は 3.5 インチ)。
- ▶▶ 720K, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 720K バイト。
- ▶▶ 1.44M, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 1.44M バイト。
- ▶▶ 2.88M, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 2.88M バイト。

☞ Floppy 3 Mode Support (for Japan Area)

- ▶▶ Disabled 通常のフロッピードライブ。(デフォルト値)
- ▶▶ Drive A ドライブ A は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Drive B ドライブ B は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Both ドライブ A および B は 3 モードフロッピードライブです。

☞ Halt on

この項目で電源投入時にエラー検出があった場合に、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- ▶▶ No Errors システム起動時にエラー検出があっても表示されても、続行します。
- ▶▶ All Errors BIOS が重大ではないエラーを検出しても、システムは停止します。
- ▶▶ All, But Keyboard システム起動はキーボードエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。(デフォルト値)
- ▶▶ All, But Diskette システム起動はディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。
- ▶▶ All, But Disk/Key システム起動はキーボードエラーまたはディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。

☞ Memory

この項目は表示のみで、BIOS の POST (電源起動時セルフテスト)によって判断されます。

▶▶ Base Memory

BIOS の POST はシステムにインストールされているベース(コンベンショナル)メモリ容量を検出します。

ベースメモリ容量は通常 512K 搭載のマザーボードではシステム用に 512K で、640K 以上搭載のマザーボードではシステム用に 640K となります。

▶▶ Extended Memory

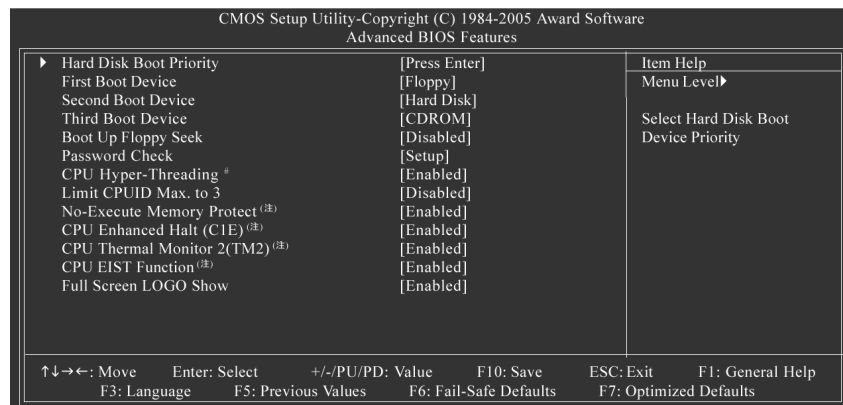
BIOS は POST 中に拡張メモリ容量を検出します。

これは CPU メモリアドレスマップ上で 1MB バイト以上に位置する容量です。

▶▶ Total Memory

このアイテムは使用したメモリ容量を表示します。

2-2 Advanced BIOS Features



“#”： このオプションは、取り付けた CPU が Intel®ハイパースレッディングテクノロジーに対応している場合のみ利用可能です。

☞ Hard Disk Boot Priority

オンボード(またはアドオンカード)の SCSI、RAID 等の起動順序を指定します。

デバイス選択には<↑>または<↓>を使用し、リスト内は<+>で上方に移動また<->で下方に移動します。<ESC>を押すとこのメニューを終了します。

☞ First / Second / Third Boot Device

- ▶ Floppy 起動用デバイスの優先順位でフロッピーを指定します。
- ▶ LS120 起動用デバイスの優先順位で LS120 を指定します。
- ▶ Hard Disk 起動用デバイスの優先順位でハードディスクを指定します。
- ▶ CDROM 起動用デバイスの優先順位で CDROM を指定します。
- ▶ ZIP 起動用デバイスの優先順位で ZIP を指定します。
- ▶ USB-FDD 起動用デバイスの優先順位で USB-FDD を指定します。
- ▶ USB-ZIP 起動用デバイスの優先順位で USB-ZIP を指定します。
- ▶ USB-CDROM 起動用デバイスの優先順位で USB-CDROM を指定します。
- ▶ USB-HDD 起動用デバイスの優先順位で USB-HDD を指定します。
- ▶ Legacy LAN 起動用デバイスの優先順位で LAN を指定します。
- ▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Boot Up Floppy Seek

POST 時に、BIOS はインストールされているフロッピーディスクドライブが 40トラックであるか、または 80トラックであるかを測定します。360K タイプでは 40トラック、720K、1.2M 及び 1.44M はみな 80トラックです。

- ▶ Enabled BIOS はフロッピーディスクドライブを検索し、40トラックまたは 80トラックのどちらであるかを測定します。BIOS は同じ 80トラックである 720K、1.2M、1.44M ドライブタイプを識別できません。
- ▶ Disabled BIOS はトラック番号でフロッピーディスクタイプを検索しません。インストールされているドライブが 360K である場合は、警告メッセージが表示されません。(デフォルト値)

(注) この項目は当機能をサポートするプロセッサをインストールした時にのみ表示されます。

☞ **Password Check**

- ▶▶ System プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動せず、セットアップ画面も表示できません。
- ▶▶ Setup プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動しますが、セットアップ画面は表示できません。
(デフォルト値)

☞ **CPU Hyper-Threading**

このオプションは、取り付けた CPU が Intel® ハイパースレッディングテクノロジーに対応している場合のみ表示されます。

- ▶▶ Enabled CPU のハイパースレッディング機能を有効にします。この機能はマルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作する点にご注意ください。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU ハイパースレッディングを無効にします。

☞ **Limit CPUID Max. to 3**

- ▶▶ Enabled NT4 の様な旧式の OS を使用する場合は、CPUID Maximum 値を 3 に制限してください。
- ▶▶ Disabled Windows XP の CPUID Limit を無効にします。(デフォルト値)

☞ **No-Execute Memory Protect^(注)**

- ▶▶ Enabled 非実行メモリ保護機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled 非実行メモリ保護機能を無効にします。

☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)^(注)**

- ▶▶ Enabled CPU 拡張停止(C1E)機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU 拡張停止(C1E)機能を無効にします。

☞ **CPU Thermal Monitor 2 (TM2)^(注)**

- ▶▶ Enabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を無効にします。

☞ **CPU EIST Function^(注)**

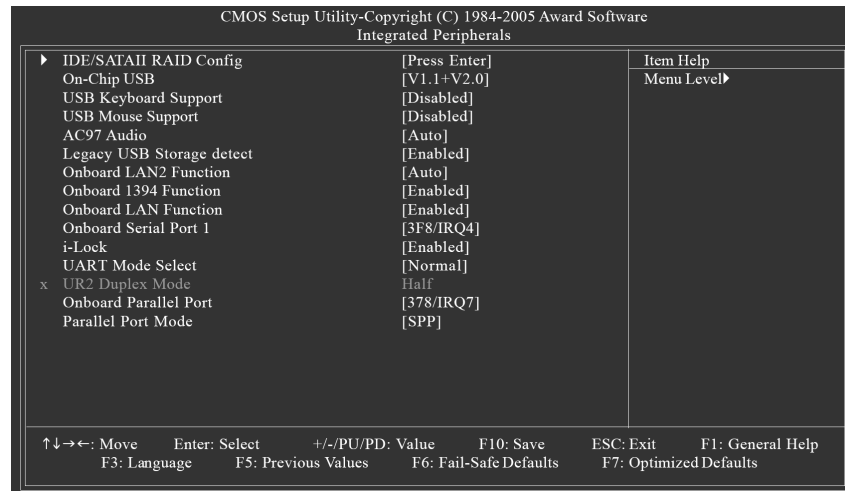
- ▶▶ Enabled CPU EIST 機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU EIST 機能を無効にします。

☞ **Full Screen LOGO Show**

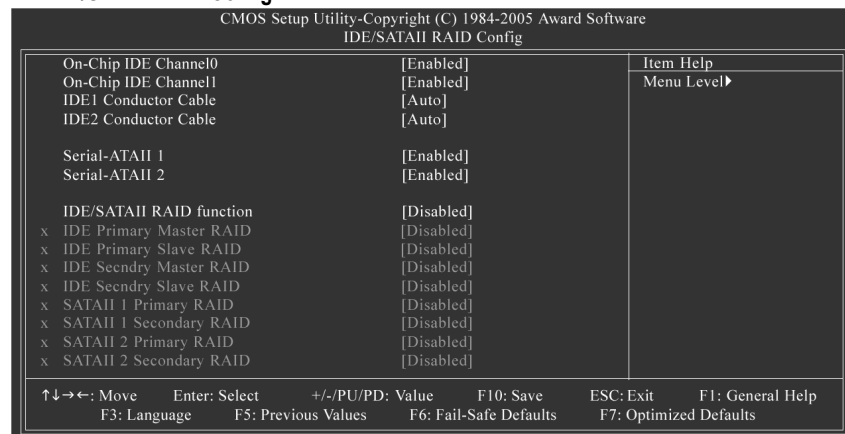
- ▶▶ Enabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を無効にします。

(注) この項目は当機能をサポートするプロセッサをインストールした時にのみ表示されます。

2-3 Integrated Peripherals



IDE/SATAII RAID Config



On-Chip IDE Channel 0

- ▶▶ Enabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを無効にします。

On-Chip IDE Channel 1

- ▶▶ Enabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを無効にします。

- ☞ **IDE1 Conductor Cable**
 - ▶▶ Auto BIOS が IDE1 コンダクタケーブルを自動検出する。(デフォルト値)
 - ▶▶ ATA66/100/133 IDE1 コンダクタケーブルを ATA66/100/133 に設定する(IDE デバイスとケーブルが ATA66/100/133 互換であることを確認ください)。
 - ▶▶ ATA33 IDE1 コンダクタケーブルを ATA33 に設定する(IDE デバイスとケーブルが ATA33 互換であることを確認ください)
- ☞ **IDE2 Conductor Cable**
 - ▶▶ Auto BIOS が IDE2 コンダクタケーブルを自動検出する。(デフォルト値)
 - ▶▶ ATA66/100/133 IDE2 コンダクタケーブルを ATA66/100/133 に設定する。(IDE デバイスとケーブルが ATA66/100/133 互換であることを確認ください)
 - ▶▶ ATA33 IDE2 コンダクタケーブルを ATA33 に設定する(IDE デバイスとケーブルが ATA33 互換であることを確認ください)
- ☞ **Serial-ATAII 1 (Onboard nVIDIA chipset)**
 - ▶▶ Enabled Serial-ATAII 1 対応を有効にする。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled Serial-ATAII 1 対応を無効にする。
- ☞ **Serial-ATAII 2 (Onboard nVIDIA chipset)**
 - ▶▶ Enabled Serial-ATAII 2 対応を有効にする。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled Serial-ATAII 2 対応を無効にする。
- ☞ **IDE/SATAII RAID function**
 - ▶▶ Enabled IDE/SATAII 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled IDE/SATAII 機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **IDE Primary Master RAID**
 - ▶▶ Enabled 1st マスターチャンネル IDE RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **IDE Primary Slave RAID**
 - ▶▶ Enabled 1st スレーブチャンネル IDE RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **IDE Secndry Master RAID**
 - ▶▶ Enabled セカンダリマスターチャンネル IDE RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **IDE Secndry Slave RAID**
 - ▶▶ Enabled セカンダリスレーブチャンネル IDE RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **SATAII 1 Primary RAID**
 - ▶▶ Enabled SATAII 1 1st SATA RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **SATAII 1 Secondary RAID**
 - ▶▶ Enabled SATAII 1 2nd SATA RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **SATAII 2 Primary RAID**
 - ▶▶ Enabled SATAII 2 1st SATA RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

- ☞ **SATAII 2 Secondary RAID**
 - ▶▶ Enabled SATAII 2 2nd SATA RAID 機能を有効にします。
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **On-Chip USB**
 - ▶▶ V1.1+V2.0 USB 1.1 及び USB 2.0 コントローラを有効にする。(デフォルト値)
 - ▶▶ V1.1 USB 1.1 コントローラのみを有効にする。
 - ▶▶ Disabled オンチップ USB のサポートを無効にします。
- ☞ **USB Keyboard Support**
 - ▶▶ Enabled USB キーボードサポートを有効にします。
 - ▶▶ Disabled USB キーボードサポートを無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **USB Mouse Support**
 - ▶▶ Enabled USB マウスサポートを有効にします。
 - ▶▶ Disabled USB マウスサポートを無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **AC97 Audio**
 - ▶▶ Auto オンボードの AC97 オーディオ機能を自動検出します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ☞ **Legacy USB storage detect**
 - ▶▶ Enabled USB ストレージデバイス起動可能(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ☞ **Onboard LAN2 Function (Marvell 88E1111)**
 - ▶▶ Auto オンボード LAN2 チップ機能を自動検出します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled オンボード LAN2 チップ機能を無効にします。
- ☞ **Onboard 1394 Function**
 - ▶▶ Enabled オンボード IEEE1394 機能を有効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled オンボード IEEE1394 機能を無効にします。
- ☞ **Onboard LAN Function (Agere ET1310)**
 - ▶▶ Enabled オンボード LAN チップ機能を有効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled オンボード LAN チップ機能を無効にします。
- ☞ **Onboard Serial Port 1**
 - ▶▶ Auto BIOS は自動的に 1 番ポートアドレスを設定します。
 - ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3F8/IRQ4 に設定します。(デフォルト値)
 - ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2F8/IRQ3 に設定します。
 - ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3E8/IRQ4 に設定します。
 - ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2E8/IRQ3 に設定します。
 - ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 1 番を無効にします。
- ☞ **i-LOCK**
 - ▶▶ Enabled i-Lock 機能を有効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled i-Lock 機能を無効にします。
- ☞ **UART Mode Select**

この項目でオンボード I/O チップの赤外線(IR)機能の設定を行います。

 - ▶▶ Normal オンボード I/O チップ UART をノーマルモードに設定します。(デフォルト値)
 - ▶▶ IrDA オンボード I/O チップ UART を IrDA モードに設定します。
 - ▶▶ ASKIR オンボード I/O チップ UART を ASKIR モードに設定します。
 - ▶▶ SCR オンボード I/O チップ UART を SCR インタフェースに設定します。

☞ **UR2 Duplex Mode**

この項目で IR モードを選択します。

この機能は“UART モード選択”がノーマル/SCR 以外のときに有効です。

- ▶▶ Half IR 機能半二重通信。(デフォルト値)
- ▶▶ Full IR 機能全二重通信。

☞ **Onboard Parallel Port**

- ▶▶ Disabled オンボード LPT ポートを無効にします。
- ▶▶ 378/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 378/IRQ7 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 278/IRQ5 に設定します。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 3BC/IRQ7 に設定します。

☞ **Parallel Port Mode**

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートとして使用します。(デフォルト値)
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートとして使用します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートとして使用します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートを ECP および EPP モードで使用します。

2-4 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Soft-Off by Power button	[Instant-Off]	Menu Level▶
PME Event Wake Up	[Enabled]	
Modem Ring On	[Enabled]	
USB Resume from Suspend	[Enabled]	
Power-On by Alarm	[Disabled]	
x Day of Month Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC BACK Function	[Soft-Off]	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
 F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

❏ ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1 (POS) ACPI サスペンドの種類を S1/POS (Power On Suspend)に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ S3 (STR) ACPI サスペンドの種類を S3/STR (Suspend To RAM)に設定します。

❏ Soft-Off by Power button

- ▶▶ Instant-Off 電源ボタンを押すと、すぐ電源をオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、電源オフになります。ボタン押す時間が 4 秒間未満の場合、サスペンドモードに入ります。

❏ PME Event Wake Up

この機能を使用するには、最低でも 5VSB リードで 1A を供給できる ATX 電源が必要となります。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled PME をウェイクアップイベントとして使用可能にします。(デフォルト値)

❏ Modem Ring On

モデム経由の着信でシステムがサスペンドモードからウェイクアップします。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled モデムリングオン機能を有効にします。(デフォルト値)

❏ USB Resume from Suspend

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enable USB デバイスによるサスペンドモードからのシステムウェイクアップを有効にします。(デフォルト値)

❏ Power-On by Alarm

“Power-On by Alarm”項目の設定で、入力した日付/時刻にシステム電源がオンになります。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled アラーム機能を有効にすることで、電源オンにします。

Power-On by Alarm を有効にした場合。

- ▶▶ Day of Month Alarm: 毎日、1~31
- ▶▶ Time (hh:mm:ss) Alarm: (0~23):(0~59):(0~59)

☞ **Power On By Mouse**

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックするとシステム電源がオンになります。

☞ **Power On By Keyboard**

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Keyboard 98 “パワーキー”ボタンがキーボードにある場合は、そのキーを押すとシステム電源がオンになります。
- ▶▶ Password システム電源オン時のパスワードを設定します。

☞ **KB Power ON Password**

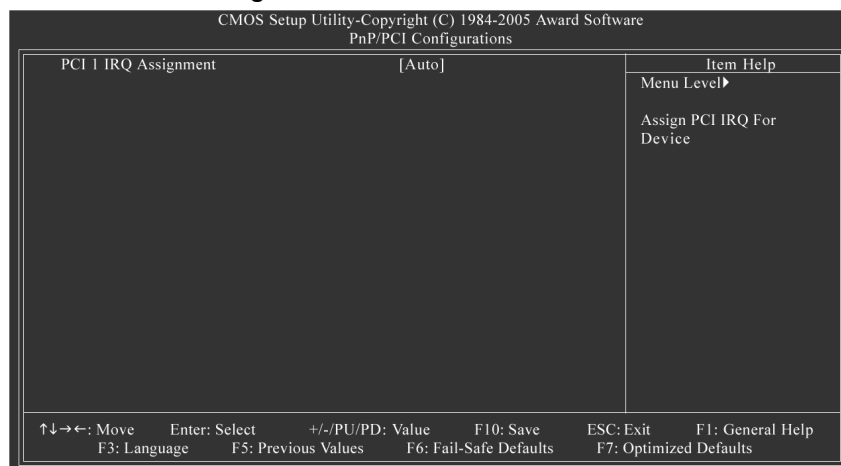
“Power On by Keyboard”項目では“Password”を設定した場合、ここでパスワードが設定できます。

- ▶▶ Enter パスワード(1~5 文字の英数字)を入力し、Enter を押してキーボード電源オンパスワードを設定してください。

☞ **AC BACK Function**

- ▶▶ Soft-Off AC 電源が回復すると、システムは“Off”の状態になります。(デフォルト値)
- ▶▶ Full-On AC 電源が回復すると、システムは“On”の状態になります。

2-5 PnP/PCI Configurations



☞ PCI 1 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 1 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 1 に IRQ 3、4、5、7、9、10、11、12、14、15 を割当てます。

2-6 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software PC Health Status		
Vcore	OK	Item Help
DDR18V	OK	Menu Level ▶
+3.3V	OK	
+5V	OK	[Disabled]
+12V	OK	Don't reset case open status
Current CPU Temperature	38°C	
Current NB Temperature	39°C	
Power IC Temperature	54°C	
Current CPU FAN Speed	2109 RPM	[Enabled]
Current POWER FAN Speed	0 RPM	Clear case open status and set to be Disabled at next boot
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
Auxilliary Fan Speed	0 RPM	
Memory Fan Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

- ☞ **Current Voltage(V) Vcore / DDR18V / +3.3V / +5V / +12V**
 - ▶ システム電圧状態を自動検出します。
- ☞ **Current CPU / NB / Power IC Temperature**
 - ▶ CPU/NB/Power IC 温度を自動的に検出します。
- ☞ **Current CPU/POWER/SYSTEM/Auxilliary/Memory FAN Speed (RPM)**
 - ▶ CPU/電源/システム/補助装置/メモリ ファン速度の状態を自動的に検出します。
- ☞ **CPU Warning Temperature**
 - ▶ 60°C / 140°F CPU 温度が 60°C / 140°F でアラームを発します。
 - ▶ 70°C / 158°F CPU 温度が 70°C / 158°F でアラームを発します。
 - ▶ 80°C / 176°F CPU 温度が 80°C / 176°F でアラームを発します。
 - ▶ 90°C / 194°F CPU 温度が 90°C / 194°F でアラームを発します。
 - ▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **CPU/POWER/SYSTEM FAN Fail Warning**
 - ▶ Disabled CPU/システム/パワーファン故障警告機能を無効にします。(デフォルト値)
 - ▶ Enabled CPU/パワー/システムファン故障警告機能を有効にします。

2-7 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)		
C.A.M. ^(注)	[High]	Item Help
CPU Clock Ratio ^(注)	[16x]	Menu Level▶
C.I.A.2	[Disabled]	
FSB Turbo Mode	[Disabled]	
System Clock Mode	[Optimal]	
Current FSB Speed (QDR)	800.0 MHz	
Target FSB Speed (QDR)	800.0 Mhz	
x New FSB Speed (QDR)	Auto	
Current MEM Speed (DDR)	533.3 MHZ	
Target MEM Speed (DDR)	533.3 MHZ	
x New MEM Speed (DDR)	Auto	
PCIE x16 Slot Lanes	[Auto]	
Init Display First	[PEG(SLOT2)]	
SLI Broadcast Aperture	[Disabled]	
Robust Graphics Booster	[Auto]	
▶ Advanced Voltage Control	[Press Enter]	
▶ Advanced Freq. Control	[Press Enter]	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Advanced Voltage Control

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software Advanced Voltage Control		
CPU Voltage Control	[Normal]	Item Help
Normal CPU Vcore	1.3875V	Menu Level▶
DIMM OverVoltage Control	[Normal]	
N.Bridge OverVoltage Control	[Normal]	
S.Bridge OverVoltage Control	[Normal]	
FSB OverVoltage Control	[Normal]	
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		

Advanced Freq. Control

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2005 Award Software Advanced Freq. Control		
PCIE Frequency(MHz)	[100.0000]	Item Help
LDT Frequency	[4X]	Menu Level▶
↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F3: Language F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults		



間違った使用はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください。

注意

(注) この項目は当機能をサポートするプロセッサをインストールした時にのみ表示されます。

- ☞ **C.A.M.^(注)**
 - ▶▶ High 周波数固定 CPU のクロック比を高に設定します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Low 周波数固定 CPU のクロック比を低に設定します。
- ☞ **CPU Clock Ratio^(注)**

この設定オプションは CPU 検出時に自動的に割り当てられます。CPU レートが変更不可能な場合、このオプションは"Locked"と表示されて読取専用になるか、或いは表示されません。
- ☞ **C.I.A.2**

C.I.A.2 (CPU Intelligent Accelerator 2)は、ソフトウェアプログラムを実行中にCPU 負荷を検出し、CPU コンピューティングパワーを最大システム性能へと自動調節します。

 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Cruise C.I.A.2 を Cruise に設定します。CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数 (5%と、7%)を増強します。
 - ▶▶ Sports C.I.A.2 を Sports に設定します。CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数 (7%と、9%)を増強します。
 - ▶▶ Racing C.I.A.2 を Racing に設定します。CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数 (9%と、11%)を増強します。
 - ▶▶ Turbo C.I.A.2 を Turbo に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数 (15%と、17%)を増強します。)
 - ▶▶ Full Thrust C.I.A.2 を Full Thrust に設定します。CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数 (17%と、19%)を増強します。

警告: 安定性はシステムコンポーネントにより異なります。
- ☞ **FSB Turbo Mode**
 - ▶▶ Disabled FSB Turbo Mode を無効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Enabled FSB Turbo Mode を有効にします。
- ☞ **System Clock Mode**
 - ▶▶ Optimal FSB 及びメモリスピードを自動的に設定します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Linked FSB 及びメモリスピードは適切にオーバークロックできます。
 - ▶▶ Expert FSB 及びメモリスピードを手動で入力します。
- ☞ **Current FSB Speed (QDR)**

現在の CPU FSB Speed を表示します。
- ☞ **Target FSB Speed (QDR)**

この項目は、New FSB Speed (QDR)に設定された値に基づきます。
- ☞ **New FSB Speed (QDR)**

この項目は、System Clock Mode が Linked または Expert に設定された場合に有効になります。New FSB Speed に入力するか、プラス記号(+)/マイナス記号(-)を使用して FSB Speed を設定します。
- ☞ **Current MEM Speed (DDR)**

現在のメモリスピードを表示します。
- ☞ **Target MEM Speed (DDR)**

この値は NEW FSB Speed (QDR)及び NEW MEM Speed (DDR)に設定された値に基づいて変更されます。
- ☞ **New MEM Speed (DDR)**

この項目は、System Clock Mode が Linked または Expert に設定された場合に有効になります。新メモリスピードに入力するか、プラス記号(+)/マイナス記号(-)を使用してメモリスピードを設定します。

☞ PCIe x16 Slot Lanes

SLI スイッチモジュール(GC-SLISW-C19)の設定によります。

SLI モード:

▶▶ Auto / 8-8-16-0 / 8-8-8-8 / 0-3D1-16-1 / 0-3D1-3D1-1 (デフォルト値: Auto)

ノーマルモード:

▶▶ Auto / 1-16-16-1 / 0-16-8-8 / 1_16-3D1-1 (デフォルト値: Auto)

[Auto] 最適な設定を自動選択する。

[1-16-16-1]

青 PEG= x16

黒 PEG=x1

[0-16-8-8]

PEG1=無効

PEG2=x16, PEG3&4=x8

[8-8-16-0]

PEG1&2=x8, PEG3=x16

PEG4=無効

[8-8-8-8]

PEGs はすべて x8

☞ Init Display First

この機能で、ユーザーによりマザーボードにインストールされた PCI カードと PCI Express VGA カードのどちらをモニタ表示の初期設定とするかを指定できます。

▶▶ PCI Slot 初期ディスプレイを優先に PCI VGA カードに設定。

▶▶ PEG (SLOT2) 初期ディスプレイを優先に PCI エクスプレス VGA カードに設定 (スロット 2)。(デフォルト値)

▶▶ PEG (SLOT1) 初期ディスプレイを優先に PCI エクスプレス VGA カードに設定 (スロット 1)。

▶▶ PEG (SLOT3) 初期ディスプレイを優先に PCI エクスプレス VGA カードに設定 (スロット 3)。

▶▶ PEG (SLOT4) 初期ディスプレイを優先に PCI エクスプレス VGA カードに設定 (スロット 4)。

☞ SLI Broadcast Aperture

▶▶ Auto SLI Broadcast Aperture を自動に設定します。

▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

☞ Robust Graphics Booster

このオプションを指定すると VGA グラフィックスカードの帯域を拡張してより高い性能が得られます。

▶▶ Auto Robust Graphics Booster を自動に設定します。(デフォルト値)

▶▶ Fast Robust Graphics Booster を Fast に設定します。

▶▶ Turbo Robust Graphics Booster を Turbo に設定します。

☞ CPU Voltage Control

▶▶ 0.0125V で調整可能な CPU 電圧をサポート。(デフォルト値: ノーマル)

警告: CPU の過電圧状態では、CPU が損傷または CPU 寿命が短くなることがあります。

☞ DIMM OverVoltage Control

- ▶▶ 0.05V で調整可能な DIMM の過電圧をサポートします。
- ▶▶ Normal DIMM 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.10V DIMM 過電圧制御を+0.10V に設定します。
- ▶▶ +0.15V DIMM 過電圧制御を+0.15V に設定します。
- ▶▶ +0.20V DIMM 過電圧制御を+0.20V に設定します。
- ▶▶ +0.25V DIMM 過電圧制御を+0.25V に設定します。
- ▶▶ +0.30V DIMM 過電圧制御を+0.30V に設定します。
- ▶▶ +0.35V DIMM 過電圧制御を+0.35V に設定します。
- ▶▶ +0.40V DIMM 過電圧制御を+0.40V に設定します。
- ▶▶ +0.45V DIMM 過電圧制御を+0.45V に設定します。
- ▶▶ +0.50V DIMM 過電圧制御を+0.50V に設定します。
- ▶▶ +0.55V DIMM 過電圧制御を+0.55V に設定します。

警告: DIMM 電圧を上げるとオーバークロックの安定性が向上しますが、DIMM モジュールを損傷する可能性があります。

☞ N. Bridge Voltage Control

- ▶▶ 0.05V で調整可能なノースブリッジの過電圧をサポートします。
- ▶▶ Normal ノースブリッジ電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.10V ノースブリッジ電圧制御を+0.10V に設定します。
- ▶▶ +0.15V ノースブリッジ電圧制御を+0.15V に設定します。
- ▶▶ +0.20V ノースブリッジ電圧制御を+0.20V に設定します。
- ▶▶ +0.25V ノースブリッジ電圧制御を+0.25V に設定します。
- ▶▶ +0.30V ノースブリッジ電圧制御を+0.30V に設定します。
- ▶▶ +0.35V ノースブリッジ電圧制御を+0.35V に設定します。
- ▶▶ +0.40V ノースブリッジ電圧制御を+0.40V に設定します。
- ▶▶ +0.45V ノースブリッジ電圧制御を+0.45V に設定します。
- ▶▶ +0.50V ノースブリッジ電圧制御を+0.50V に設定します。
- ▶▶ +0.55V ノースブリッジ電圧制御を+0.55V に設定します。

警告: ノースブリッジ電圧を上げるとオーバークロックの安定性が向上しますが、PCI-E デバイスが損傷する可能性があります。

☞ S. Bridge Voltage Control

- ▶▶ 0.05V で調節可能なサウスブリッジの過電圧をサポート。
- ▶▶ Normal サウスブリッジ電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.10V サウスブリッジ電圧制御を+0.10V に設定します。
- ▶▶ +0.15V サウスブリッジ電圧制御を+0.15V に設定します。
- ▶▶ +0.20V サウスブリッジ電圧制御を+0.20V に設定します。
- ▶▶ +0.25V サウスブリッジ電圧制御を+0.25V に設定します。
- ▶▶ +0.30V サウスブリッジ電圧制御を+0.30V に設定します。
- ▶▶ +0.35V サウスブリッジ電圧制御を+0.35V に設定します。
- ▶▶ +0.40V サウスブリッジ電圧制御を+0.40V に設定します。
- ▶▶ +0.45V サウスブリッジ電圧制御を+0.45V に設定します。
- ▶▶ +0.50V サウスブリッジ電圧制御を+0.50V に設定します。
- ▶▶ +0.55V サウスブリッジ電圧制御を+0.55V に設定します。

警告: サウスブリッジ電圧を上げるとオーバークロックの安定性が向上しますが、PCI-E デバイスが損傷する可能性があります。

☞ **FSB OverVoltage Control**

- ▶▶ 0.025V で調節可能な FSB(Front Side Bus)の過電圧をサポートします
- ▶▶ Normal FSB 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.025V FSB 過電圧制御を+0.025V に設定します。
- ▶▶ +0.050V FSB 過電圧制御を+0.050V に設定します。
- ▶▶ +0.075V FSB 過電圧制御を+0.075V に設定します。
- ▶▶ +0.100V FSB 過電圧制御を+0.100V に設定します。
- ▶▶ +0.125V FSB 過電圧制御を+0.125V に設定します。
- ▶▶ +0.150V FSB 過電圧制御を+0.150V に設定します。
- ▶▶ +0.175V FSB 過電圧制御を+0.175V に設定します。

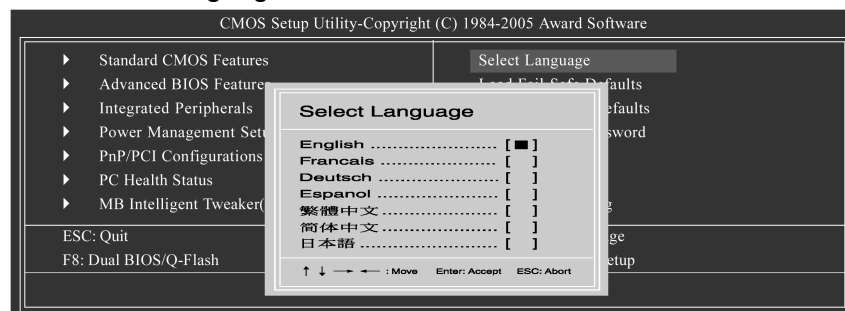
☞ **PCIE Frequency (MHz)**

- ▶▶ PCIE 周波数を表示します。

☞ **LDT Frequency (MHz)**

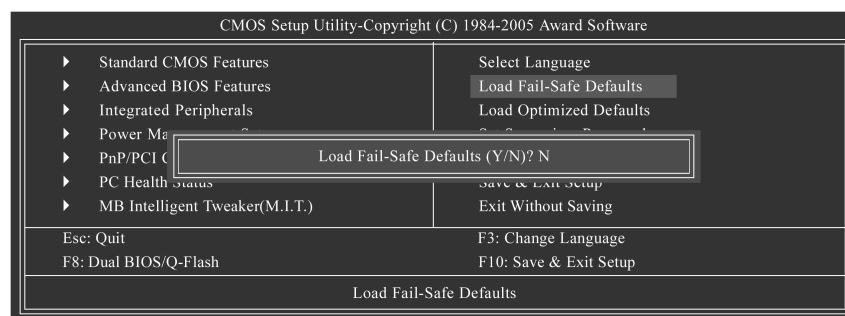
- ▶▶ LDT 周波数を 1X に設定します。
- ▶▶ LDT 周波数を 2X に設定します。
- ▶▶ LDT 周波数を 3X に設定します。
- ▶▶ LDT 周波数を 4X に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ LDT 周波数を 5X に設定します。
- ▶▶ LDT 周波数を 3.5X に設定します。

2-8 Select Language



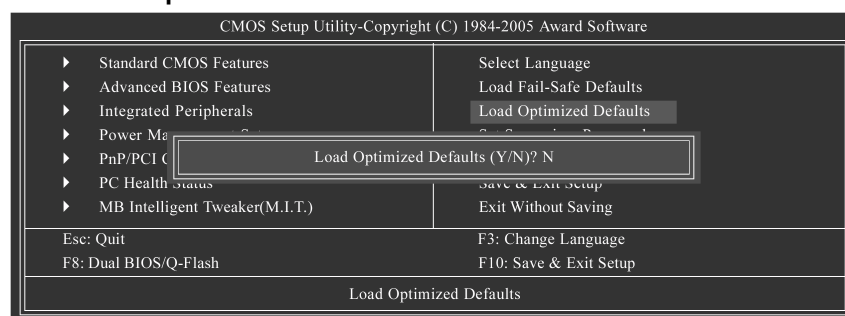
マルチ言語は以下の 7 言語に対応しています。英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、繁体字中国語、簡体字中国語および日本語です。

2-9 Load Fail-Safe Defaults



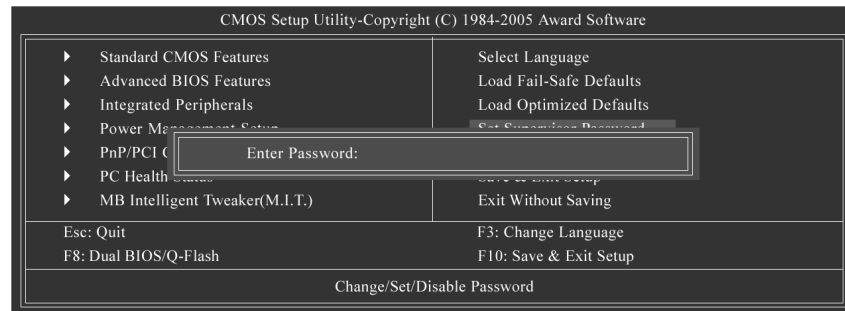
Fail-Safe defaults はシステムパラメータの最適値で構成され、システムに最低限の性能で動作します。

2-10 Load Optimized Defaults



この設定を選択すると、BIOS の出荷時デフォルト値およびシステムが自動検知するチップセット機能がロードされます。

2-11 Set Supervisor/User Password



この機能を選択すると、画面中央に以下のメッセージが表示され、パスワード作成のヒントを提供します。

最大 8 文字のパスワードをキー入力し、<Enter>を押します。パスワードの確認を求められます。パスワードを再度キー入力し、<Enter>を押します。<Esc>を押すと設定は中断され、パスワード入力を中止します。

パスワードを無効にするには、パスワード入力を求められた時点で<Enter>を押します。“パスワードが無効になりました”というメッセージが表示され、パスワード無効を確認します。パスワードが無効になると、システムが起動し、いつでもセットアップが可能となります。

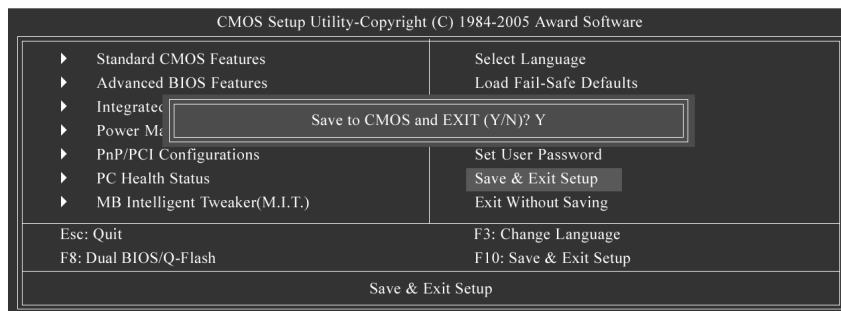
BIOS セットアッププログラムには異なる 2 つのパスワードが使用できます：

SUPERVISOR PASSWORD および USER PASSWORD です。無効にすると、誰でも BIOS セットアッププログラム機能が使用できます。有効にすると、BIOS セットアッププログラムの設定欄全てを表示するには管理者パスワード、基本項目のみ表示するにはユーザーパスワードの入力が必要となります。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“System”を選ぶと、システム再起動のたびまたはセットアップに入るたびに、パスワード入力が必要されます。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“Setup”を選ぶと、セットアップに入るときのみパスワード入力が必要されます。

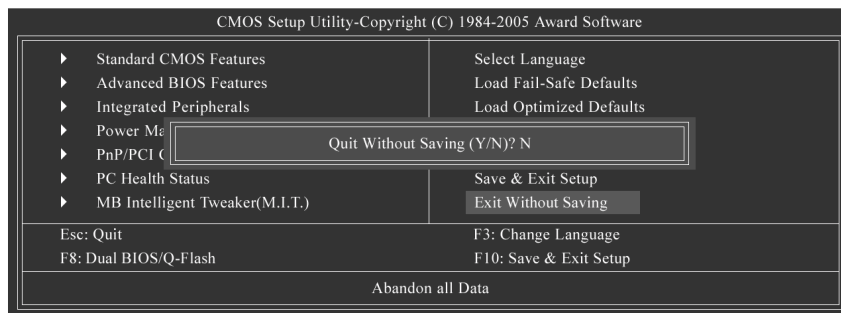
2-12 Save & Exit Setup



“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存し、セットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

2-13 Exit Without Saving



“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存せずにセットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

第3章 ドライバのインストール



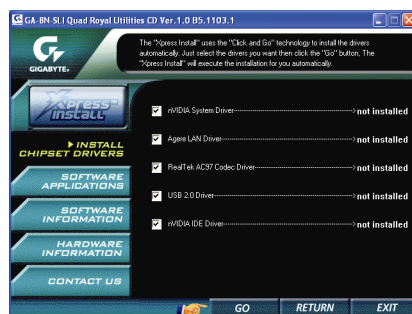
注

下図は、Windows XP で表示されています。

お買い上げのマザーボードに付属のドライバ CD-タイトルを CD-ROM ドライブに入れると、ドライバ CD-タイトルはオートスタートし、インストールガイドが表示されます。表示されない場合は、“マイコンピュータ”中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックし、Setup.exe を実行してください。

3-1 チップセットドライバのインストール

ドライバ CD が挿入されると、“Xpress Install”は自動的にシステムをスキャンし、インストール可能なすべてのドライバを表示します。“Xpress Install”は“Click and Go”テクノロジーにより、ドライバを自動インストールします。必要なドライバを選んで“GO”ボタンをクリックしてください。“Xpress Install”はインストールを自動的に実行します。



注

ドライバによってはシステムを自動的に再起動するものがあります。システム再起動後、“Xpress Install”は他のドライバのインストールを続行します。

システムは、ドライバをインストール後に自動的にリブートし、その後、ユーザーは他のアプリケーションをインストールすることができます。

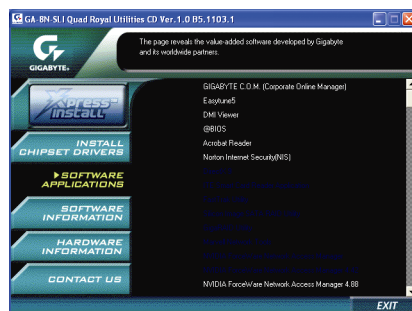


注意

Windows XP オペレーティングシステム環境での USB 2.0 ドライバサポートについては、Windows Service Pack をご使用ください。Windows Service Pack インストール後、“デバイス マネージャ”内の“ユニバーサルシリアルバスコントローラ”の欄には疑問符“?”が表示されます。疑問符を取り除きシステムを再起動してください(システムは正しい USB 2.0 ドライバを自動検出します)。

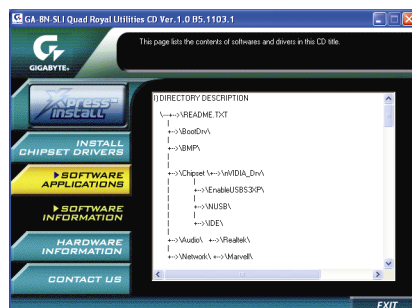
3-2 ソフトウェアのアプリケーション

このページはGigabyteが開発したすべてのツールおよび幾つかのフリーソフトウェアを表示します。インストールする場合は"install"をクリックしてください。



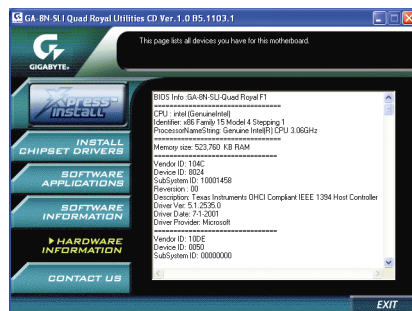
3-3 ソフトウェアの情報

このページには当 CD タイトルに収録されているソフトウェアおよびドライバの一覧が示されています。



3-4 ハードウェアの情報

このページには当マザーボード用のデバイス全てが示されています。



3-5 当社への御連絡

詳細は最後のページをご覧ください。



日本語

[illegible]

第4章 付録

4-1 ユニークソフトウェアユーティリティ

(すべてのモデルがこれらの Unique Software Utilities をサポートするわけではありません。MB 機能をチェックしてください。)



U-PLUS D.P.S. (Universal Plus Dual Power System)

U-Plus Dual Power System (U-Plus DPS)は、最大のシステム保護を目的として造られた、革命的な 8 フェーズの電力回路です。異なった電流レベルや変化に耐えられるように設計された U-Plus D.P.S.は、確実なシステム安定性を保証するため、非常に丈夫で安定した電源回路を CPU に提供します。これらの特性は、最新の LGA775 Intel® Pentium® 4 プロセッサおよび将来の Intel® プロセッサの相性に適しています。また、システムローディングの表示用に、U-Plus D.P.S. には 4 つの青色 LED が装備されています。



M.I.T. (Motherboard Intelligent Tweaker)

Motherboard Intelligent Tweaker (M.I.T.)は、相対的速度で BIOS 機能設定に容易にアクセスまたは変更できるように設計されます。GIGABYTE M.I.T.機能により、システム設定(CPU システムバス、メモリタイミング等)を変更、または Gigabyte の C.I.A. 2 および M.I.B. 2 機能を有効にするために、ユーザは BIOS 設定内で異なるモードに切り替える必要はなくなります。すべてのプラットフォーム性能設定を単一モードへ統合する M.I.T. 統合により、コンピュータシステムを必要なレベルに制御・強化することが可能になります。



C.I.A. 2 (CPU Intelligent Accelerator 2)

C.I.A. 2 (GIGABYTE CPU Intelligent Accelerator 2)は、最大システム性能を引き出すため、CPU 計算能力を自動調整するように設計されています。機能が有効にされると、プログラムは、現在の CPU ローディングを検出し、より迅速かつスムーズに処理するように CPU の計算性能を自動的に加速します。機能が無効にされると、CPU は初期ステータスに戻されます。



M.I.B. 2 (Memory Intelligent Booster 2)

オリジナルの M.I.B. に構築された新型 Memory Intelligent Booster 2 (M.I.B. 2)は、最大のメモリ性能を引き出し、メモリ帯域幅を最大 10%まで増大するように設計されています。メモリモジュールの追加情報により、ユーザは、メモリモジュールリストから選択し、メモリ性能を最適化することができます。



S.O.S. (System Overclock Saver)

System Overclock Saver (S.O.S.)は、ユーザーによるシステム過剰拡張から生じるシステム起動エラーを排除する特殊機能です。GIGABYTE の S.O.S. 機能により、ユーザは、システムを工場デフォルト設定に戻すために、PC シャシーを開けたり、“Clear CMOS”ピンまたはマザーボードのバッテリーを短絡させる必要はなくなります。代わりに、S.O.S.機能は、よりユーザーフレンドリーで高信頼のプラットフォームを提供し、自動的に工場デフォルトにオーバークロックしているシステムの設定をリセットします。



ダウンロードセンター

ダウンロードセンターにより、ユーザは BIOS やシステムの最新ドライバを高速にダウンロード・更新することができます。ダウンロードセンターは、自動的にユーザー PC のシステムチェックを実行した後、現在のシステム情報を提供し、またダウンロードのオプションと共にすべての新しいドライバの詳細リストを表示します。



C.O.M. (Corporate Online Management)

CPU、メモリ、グラフィックスカードなどのシステムハードウェア情報がインターネットを通じて監視/制御されるウェブベースのシステム管理ツール。C.O.M.は、企業 MIS 技術者に最新のドライバおよび BIOS を提供するため、企業コンピュータを容易に維持することができます。(C.O.M.及び@BIOS を同時使用しないでください。)

4-1-1 EasyTune 5 紹介

EasyTune 5 は Windows ベースのシステム性能増強および管理を行う大変便利なユーティリティです。強力が簡単操作のツールには以下が含まれます。1)システム性能増強のためのオーバークロック、2) CPU およびメモリの拡張用の C.I.A および M.I.B、3) CPU 冷却ファンおよびノースブリッジ CS 冷却ファン双方のファン速度を管理するスマートファン制御、4)システム状態を監視する PC ヘルス。^(注)

ユーザーインターフェイス外観



	ボタン/表示	説明
1.	オーバークロック	オーバークロック設定ページに移動
2.	C.I.A./C.I.A.2 および M.I.B./M.I.B.2	C.I.A./2 および M.I.B./2 設定ページに移動
3.	スマートファン	スマートファン設定ページに移動
4.	PC ヘルス	PC ヘルス設定ページに移動
5.	移動	設定および実行ボタン
6.	“イージーモード”および“アドバンスドモード”	イージーおよびアドバンスドモードの切換
7.	ディスプレイスクリーン	CPU クロックのディスプレイパネル
8.	機能表示 LED	機能の現在設定を表示
9.	GIGABYTE ロゴ	GIGABYTE ウェブサイトへ移動
10.	ヘルプボタン	EasyTune™ 5 ヘルプファイルの表示
11.	終了または最小化ボタン	EasyTune™ 5 ソフトウェアの中止または最小化

(注) EasyTune 5 機能はマザーボード毎に異なる場合があります。

4-1-2 Xpress Recovery2 の紹介



Xpress Recovery2 はハードディスク データの素早いバックアップ及び復元のためにデザインされました。Windows XP/2000/NT/98/Me、DOS を含む Microsoft のオペレーティングシステム、及び FAT16、FAT32、NTFS を含むファイルシステムをサポートしており、PATA 及び SATA IDE コントローラ上のハードディスク データをバックアップすることができます。Xpress Recovery2 は CD-ROM から初回に実行する際に、お使いのハードディスクに常駐されます。次回から Xpress Recovery2 を実行したい場合は、CD-ROM からではなく、システム起動時に F9 を押すだけで Xpress Recovery2 に入ることができます。

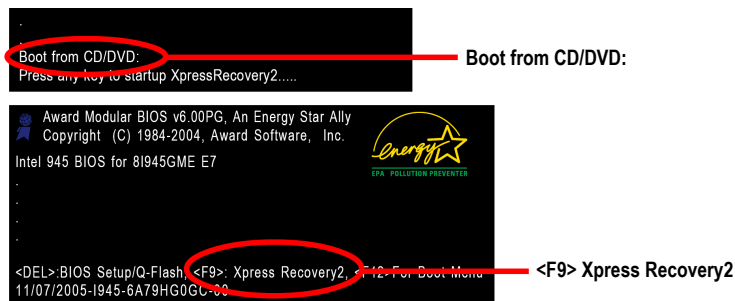
システム要件:

1. Intel x86 プラットフォーム
2. 最低 64M バイトのシステムメモリ
3. VESA 対応 VGA カード

Xpress Recovery2 の使用方法

初回使用時は CD-ROM から起動し、次回からは F9 を押します:

手順: BIOS セットアップに入った後、**Advanced BIOS Feature** へ行き、CD-ROM から起動するように設定します。設定を保存し、BIOS セットアップを終了します。付属のドライバ CD を CD-ROM ドライブに挿入します。システム再起動時に、"Boot from CD/DVD:" のメッセージが画面左下の角に表示されます。任意のキーを押して Xpress Recovery2 に入ります。上記の手順を完了した後、次回からはシステム起動時に<F9>キーを押すだけで Xpress Recovery2 を使用できます。



注

1. 既に CD-ROM から起動して Xpress Recovery2 を実行済みの場合、次回からは<F9>キーを押して Xpress Recovery2 に入ることができます。
2. システムのストレージ容量及びハードディスクの読み書き速度がデータのバックアップ速度に影響します。
3. OS 及びすべての必要なドライバとソフトウェアのインストールが完了したら、直ちに Xpress Recovery2 をインストールすることをお勧めします。

Xpress Recovery2 のメイン画面



1. RESTORE (復元):

バックアップ済みデータをお使いのハードディスクに復元します。
(バックアップ ファイルが存在しない場合、このボタンは表示されません。)

2. BACKUP (バックアップ):

ハードディスクからデータをバックアップします。

3. REMOVE (削除):

以前作成したバックアップ ファイルを削除し、ディスク空間を開放します。
(バックアップ ファイルが存在しない場合、このボタンは表示されません。)

4. REBOOT (再起動):

メイン画面を終了し、システムを再起動します。

制限:

1. Xpress Recovery とは互換性がありません。
2. Xpress Recovery2 を使用するには、プライマリ パーティションを保留しておく必要があります。
3. Xpress Recovery2 はバックアップ ファイルをハードディスクの最後に保存するため、バックアップ ファイル用にハードディスクの空き領域を前もって割り当てる必要があります。(最低 4GB をお勧めしますが、実際の空間はバックアップするデータサイズに依存します)
4. DOS 及び Windows XP/2000/NT/9x/Me を含む Windows オペレーティングシステムをインストールしたハードディスクをバックアップできます。
5. USB ハードディスクは現在のところサポートされていません。
6. RAID/AHCI (クラスコード 0104/0106)ハードディスクはサポートしません。
7. 最初の物理ハードディスクに対してのみバックアップ及び復元を行うことができます。

ハードディスクの検出シーケンスは以下の通りです:

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| a. PATA IDE プライマリ チャンネル | d. SATA IDE チャンネル 2 |
| b. PATA IDE セカンダリ チャンネル | e. SATA IDE チャンネル 3 |
| c. SATA IDE チャンネル 1 | f. SATA IDE チャンネル 4 |

警告:

1. Windows 2000 で 128G 以上のハードディスクを使用する場合、データのバックアップの前に、EnableBigLba.exe プログラムを実行してください。
2. データのバックアップに、データの復元より長い時間がかかるのは正常です。
3. Xpress Recovery2 は GPL 規定に準拠しています。
4. Nvidia チップセットをベースとする少数のマザーボードでは、Xpress Recovery2 が RAID 及び SATA IDE モードを正しく認識するように、BIOS のアップデートが必要になります。
5. Xpress Recovery2 は、以下のマザーボードにおいて PATA ハードディスクのみサポートし、SATA ハードディスクはサポートしません(これは BIOS 関連の問題であり、BIOS のアップデートで解決可能です)

GA-K8U	GA-K8NXP-9	GA-8N-SLI Royal
GA-K8U-9	GA-K8N Ultra-9	GA-8N-SLI Pro
GA-K8NXP-SLI	GA-K8NF-9 (PCB Ver. 1.0)	GA-8N-SLI
GA-K8N Ultra-SLI	GA-K8NE (PCB Ver. 1.0)	
GA-K8N Pro-SLI	GA-K8NMF-9	

4-1-3 BIOS のフラッシュ方法の説明



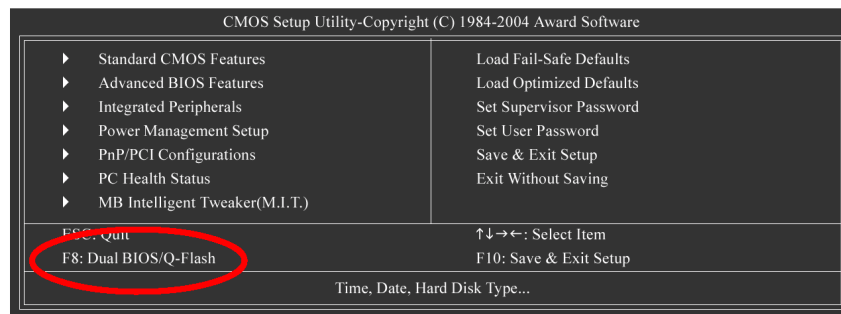
A. Dual BIOS 技術って何？

Dual BIOS は、マザーボード上に 2 つのシステム BIOS (ROM) を持つことを意味します。片方はメイン BIOS で、もう片方はバックアップ BIOS です。

通常の状態では、システムはメイン BIOS 上で稼働します。メイン BIOS が破損またはダメージを受けた場合、システム電源投入時にバックアップ BIOS が自動的に切り替わり動作します。このため、BIOS になにも発生しなかったかのように、PC は安定して動作します。

B. Dual BIOS と Q-Flash ユーティリティの使い方は？

- a. コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、AWARD BIOS SETUP に入ってください。そして、<F8>を押して FLASH ユーティリティを起動します。



- b. デュアル BIOS/Q-Flash プログラミングユーティリティ

Dual BIOS Utility V1.33			
Boot From.....	Main Bios		
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF004A	512K	
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF004A	512K	
Wide Range Protection	Disable		
Boot From	Main Bios		
Auto Recovery	Enable		
Halt On Error	Disable		
Keep DMI Data	Enable		
Copy Main ROM Data to Backup			
Load Default Settings			
Save Settings to CMOS			
Q-Flash Utility			
Update Main BIOS from Floppy			
Update Backup BIOS from Floppy			
Save Main BIOS to Floppy			
Save Backup BIOS to Floppy			
PgDn/PgUp: Modify	↑↓: Move	ESC: Reset	F10: Power Off

c. Dual BIOS アイテムの説明:

Wide Range Protection: Disable (Default), Enable

状態 1:

メイン BIOS に故障が発生した場合(ESCD の更新失敗、チェックサムエラーやリセットなど)、電源が入り、オペレーションシステムが読み込まれる直前に、Wide Range Protection が“Enable”に設定されていると、PC がバックアップ BIOS から起動します。

状態 2:

ユーザーがシステムに変更を加えた後、周辺機器カード(SCSI カードや LAN カードなど)の ROM BIOS がシステム再起動の要求を発した場合、起動 BIOS はバックアップ BIOS へ変更されます。

Boot From: Main BIOS (Default), Backup BIOS

状態 1:

起動する BIOS をメイン BIOS/バックアップ BIOS から選択することができます。

状態 2:

どちらかの BIOS が利用できないとき、本アイテム“Boot From: Main BIOS (Default)”は淡色表示になり変更できません。

Auto Recovery: Enable (Default), Disable

2つの BIOS のどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーでない BIOS が自動的にエラーの生じた BIOS を回復します。

(BIOS 設定 : Power Management Setup (電源管理セットアップ)で ACPI Suspend Type (ACPI サスペンドの種類)が Suspend to RAM (サスペンドから RAM)のとき、本項目は自動的に Enable (有効)になります。)

(BIOS 設定に入りたい場合は、起動画面が表示されたら“Del”キーを押してください。)

Halt On Error: Disable (Default), Enable

BIOS にチェックサムエラーが生じたとき、またはメイン BIOS にワイドレンジ保護エラー(WIDE RANGE PROTECTION error)が生じたとき、Halt On Error が Enable に設定されている場合に、PC はシステム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。

Auto Recovery の場合 : Disabled、<or the other key to continue>と表示されます。

Auto Recovery の場合 : Enable、<or the other key to Auto Recover>と表示されます。

Keep DMI Data: Enable (Default), Disable

有効: DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられません。(推奨)

無効: DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられます。

Copy Main Rom Data to Backup

(ハングアップ ROM から起動のとき、バックアップ ROM データからメインへのコピーに変更されます)

オートリカバリーメッセージ:

BIOS Recovery: Main to Backup

メイン BIOS が正常に作動し、自動的にバックアップ BIOS を復元します。

BIOS Recovery: Backup to Main

バックアップ BIOS が正常に作動し、自動的にメイン BIOS を復元します。(このオートリカバリーユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーによる変更はできません。)

Load Default Settings

dual BIOS の既定値を読み込みます。

Save Settings to CMOS

修正した設定を保存します。



方法 1: Q-Flash™ユーティリティ

Q-Flash™はフラッシュ ROM に組み込まれた BIOS フラッシュユーティリティです。当ユーティリティにより、ユーザーが BIOS を更新する際は、ただ BIOS メニューから操作できます。

Q-Flash™により BIOS のフラッシュ操作が DOS や Windows 上のユーティリティなしで行えます。Q-Flash™は BIOS メニュー内にありますから、オペレーティングシステムやその他複雑な操作手順などが不要になります。



注意 BIOS の更新はある程度リスクを伴うので注意深く行ってください！ユーザー皆様の BIOS 更新の誤操作に伴うシステムの障害に関しては Gigabyte Technology Co., Ltd は責任を負いかねますこと、ご容赦ください。

操作の準備:

Q-Flash™により BIOS 更新を始める前に、以下の手順に従ってください。

1. Gigabyte のウェブサイトから、ご使用のマザーボード用の最新の BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードされた BIOS を展開し、フロッピーディスクに BIOS ファイル(モデル名.Fxx という形式、例: 8KNXPU.Fba)を保存します。
3. ご使用の PC を再起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS 更新の手順は2つのパートに分かれています。

お持ちのマザーボードがデュアル BIOS 装備の場合は、**パート I**をご参照ください。

お持ちのマザーボードが単一の BIOS 装備の場合は、**パート II**をご参照ください。

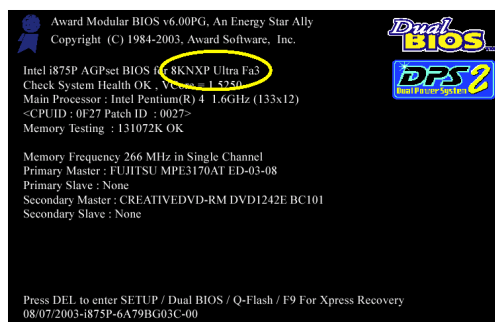
パート I:

デュアル BIOS マザーボードでの Q-Flash™を利用して、BIOS を更新。

Gigabyte 製マザーボードにはデュアル BIOS を装備しているものがあります。Q-Flash およびデュアル BIOS をサポートするマザーボードでの BIOS の場合、Q-Flash ユーティリティおよびデュアル BIOS ユーティリティは同一画面に表示されます。当セクションでは Q-Flash ユーティリティの操作方法のみを説明します。

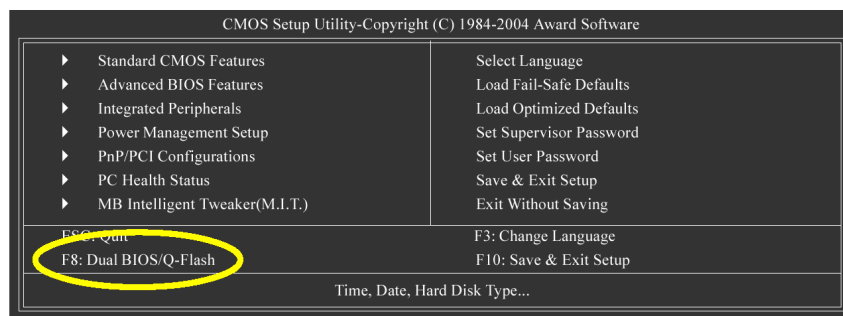
以下のセクションでは GA-8KNXP Ultra を参考例として、BIOS フラッシュ動作で古いバージョンから新しいバージョンへの更新方法をご案内します。例えば Fa3 から Fba への更新というようにです。

更新前の BIOS ファイルは Fa3



Q-Flash™ユーティリティに入る：

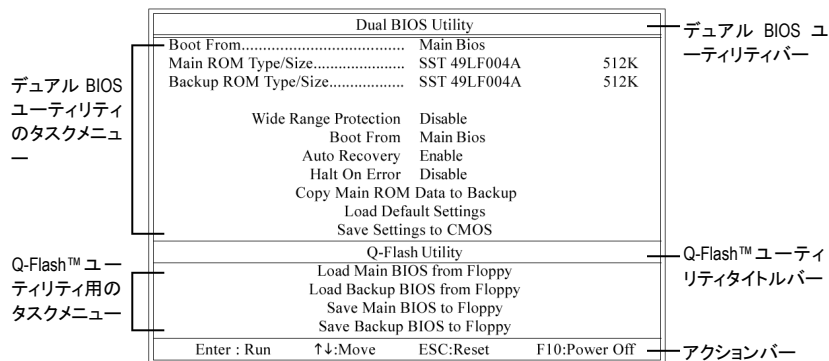
ステップ 1: Q-Flash ユーティリティの使用には、起動画面で **Del** を押し BIOS メニューに入ってください。



ステップ 2: キーボード上の **F8** ボタンを押し、次に **Y** キーを押しデュアル BIOS/Q-Flash ユーティリティに入ってください。

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面の説明

Q-Flash/デュアル BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。

**デュアル BIOS ユーティリティのタスクメニュー：**

ここには8種のタスクおよび2項目で、BIOSのROMタイプの情報を表示します。タスクをポイントしてEnterキーを押すと、そのタスクが実行されます。

Q-Flash ユーティリティ用のタスクメニュー：

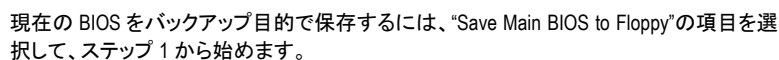
4種のタスクが含まれます。タスクをポイントしてEnterキーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー：

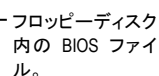
Q-Flash/デュアル BIOS ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

このセクションでは Q-Flash ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の「操作の準備」セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash メニュー内の“Load Main BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして Enter ボタンを押します。
次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。



2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。
この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、8KNXPU.Fba のみが表示されています。



Enter を押すと、フロッピーディスクからの BIOS ファイル読み込み状況が表示されます。



注意
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！！

BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。

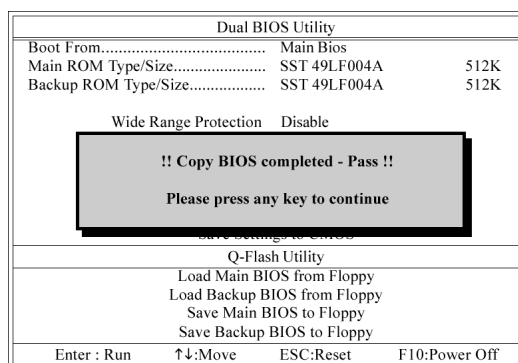
3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が表示されます。



注意

BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

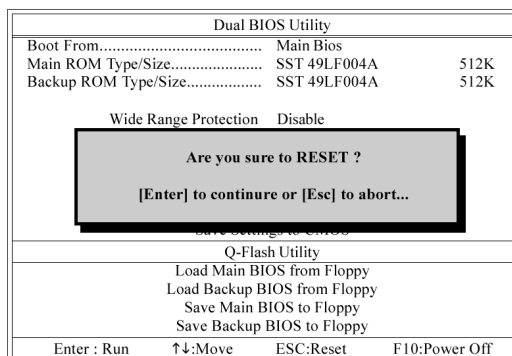
4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash メニューに戻ります。



注

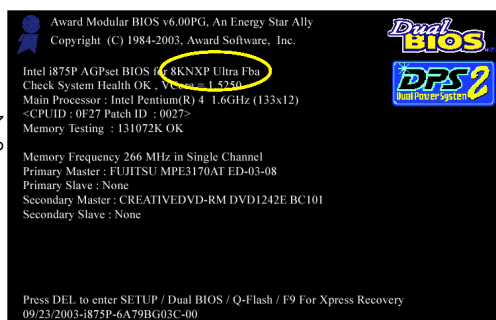
バックアップ BIOS のフラッシュにはステップ 1-4 を繰り返します。

5. Q-Flash ユーティリティを終了するには ESC、次に Y キーを押します。Q-Flash 終了後、コンピュータは自動的に再起動します。

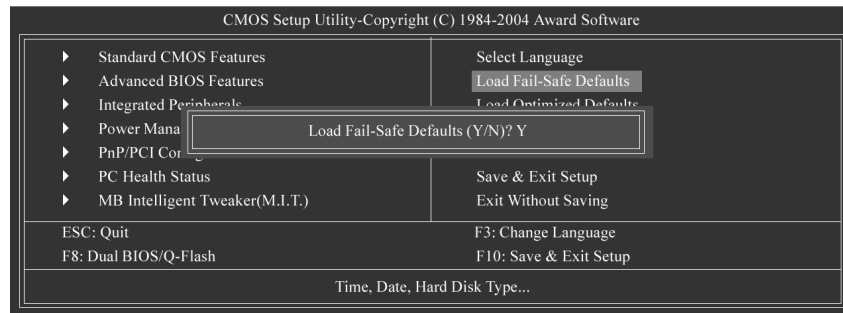


システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは Fba となっています。

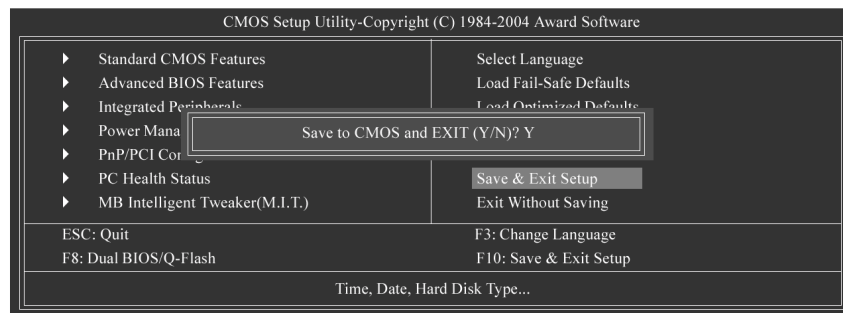


6. システム再起動後、**Del**を押して、BIOS メニューに入ります。BIOS メニューから **Load Fail-Safe Defaults** の項目を選び、**Enter** を押すと BIOS 安全デフォルト値がロードされます。通常、システムは BIOS 更新後に、既存のデバイスを皆再検出します。それで BIOS 更新後は、BIOS デフォルト値をロードしなおすよう強くお勧めします。



キーボードから **Y** キーを押して、デフォルト値をロードします。

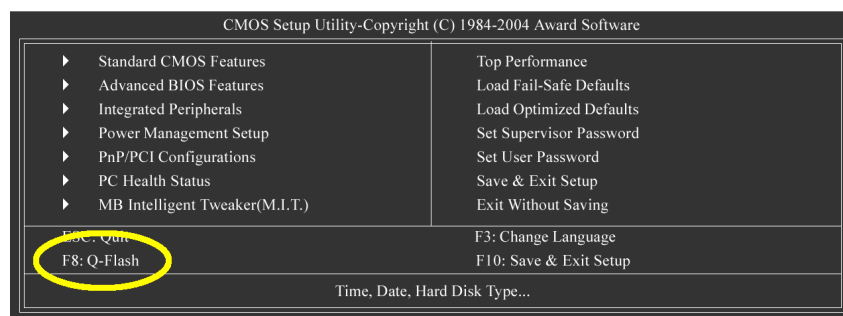
7. **Save & Exit Setup** の項目を選んで、設定を CMOS に保存し BIOS メニューを終了します。BIOS メニューを終了すると、システムは再起動します。これで全部の手順は完成です。



キーボードから **Y** キーを押して、保存して終了してください。

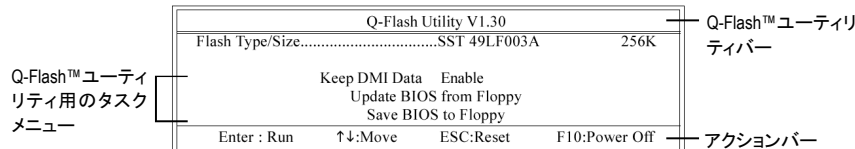
パート II:

単一の BIOS のマザーボード上での Q-Flash™ ユーティリティを利用して、BIOS を更新。
この部分では単一の BIOS のマザーボードで Q-Flash™ ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が示されています。



Q-Flash™ユーティリティに入る

Q-FlashBIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



Q-Flash ユーティリティ用のタスクメニュー:

3 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして Enter キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー:

Q-Flash ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ユーティリティの使用:

このセクションでは Q-Flash ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

ステップ:

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash メニュー内の“Update BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして Enter ボタンを押します。
次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。



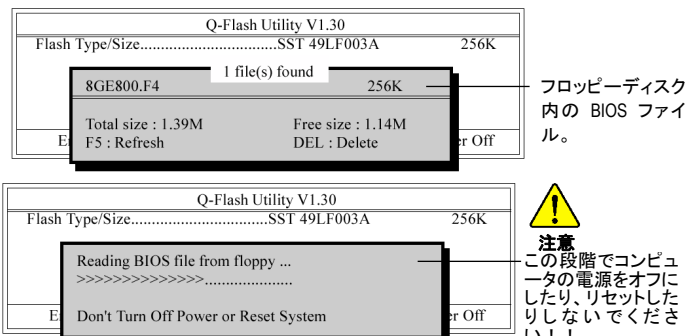
現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、“Save BIOS to Floppy”の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。

この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、8GE800.F4 のみが表示されています。



ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。



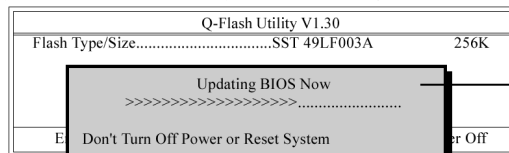
注意
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください!!

BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。



BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

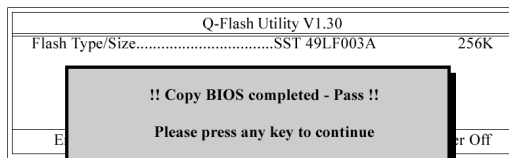
3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が即時表示されます。



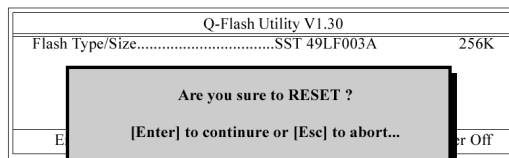
注意

この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！！

4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash メニューに戻ります。

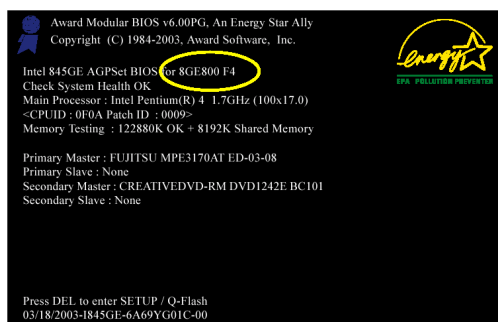


5. Q-Flash ユーティリティを終了するには ESC、次に Y キーを押します。Q-Flash 終了後、コンピュータは自動的に再起動します。



システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは F4 となっています



6. システム再起動後、Del を押して BIOS メニューに入り、BIOS Fail-Safe Defaults (BIOS 安全デフォルト値)をロードしてください。BIOS Fail-Safe Defaults のロード方法はパートⅠのステップ 6-7 をご参照ください。

これで完了です！！これで BIOS 更新に成功しました！！



方法 2: @BIOS™ ユーティリティ

DOS スタートアップディスクをお持ちでない場合は、新しい @BIOS ユーティリティを使用することをお勧めします。@BIOS は、Windows 下での BIOS 更新を可能にします。必要な @BIOS サーバーを選択し、BIOS の最新版をダウンロードしてください。

図 1 @BIOS ユーティリティをインストールする

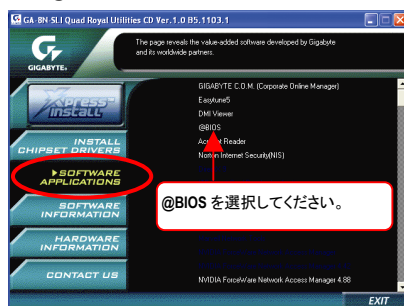


図 2 インストール完了、@BIOS を実行する

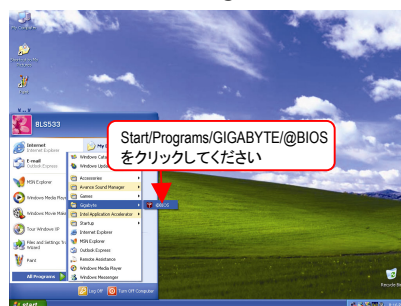


図 3 @BIOS ユーティリティ

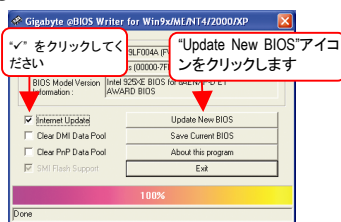
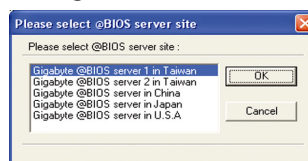


図 4 必要な @BIOS サーバーを選択する



1. 方法と手順:

I. インターネット経由で BIOS を更新

- "Internet Update"アイコンをクリックします
- "Update New BIOS"アイコンをクリックします
- @BIOS™ サーバを選択します
- ご使用のマザーボードの正確なモデル名を選択します
- システムは BIOS のダウンロードと更新を自動的に行います。

II. インターネットを経由しないで BIOS を更新:

- "Internet Update"アイコンはクリックしないでください
- "Update New BIOS"アイコンをクリックします
- ファイルを開ける際には、ダイアログボックスから"All Files"を選びます。
- インターネットやその他の方法からダウンロードした BIOS の非圧縮ファイル(例: 8NSLIQ.F1)を見出してください。
- 続く指示に従って更新操作を完了させます。

III. BIOS の保存:

最初の段階でダイアログボックスに“Save Current BIOS”アイコンが表示されます。これは現在使用中のバージョンの BIOS を保存することを意味します。

IV. サポートされているマザーボードおよびフラッシュ ROM の確認:

最初の段階でダイアログボックスに“About this program”アイコンが表示されます。これはサポートされるマザーボードとフラッシュ ROM メーカーの確認に役立ちます。

2. 注:

- I. 方法 I で、選択すべきマザーボードのモデル名が 2 つ以上表示される場合には、ご使用のマザーボードのモデル名を再確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動不能となります。
- II. 方法 II では、BIOS 非圧縮ファイルのマザーボードのモデル名が実際にご使用のマザーボードと一致していることをご確認ください。一致しないと、システムは起動しません。
- III. 方法 I で、必要な BIOS ファイルが @BIOS™ サーバ内に見つからない場合は、Gigabyte ウェブサイトからダウンロードし、方法 II で更新してください。
- IV. 更新途中に中断すると、システム起動が不能になる点にご注意ください
- V. @BIOS 及び C.O.M. (Corporate Online Management) を同時使用しないでください。

日本語

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

4-1-4 SATA ハードドライブの構成 (コントローラ:nVIDIA nForce4 SLI)

SATA ハードドライブを設定するには以下手順に従ってください:

- (1) JSATAドライブをシステムに取り付けます。
- (2) BIOS セットアップで SATA コントローラモードと起動順序を設定します。
- (3)* RAID BIOS で RAID セットを構成します。
- (4) SATA コントローラドライバを含むフロッピーディスクを作成します。
- (5) OS のインストール時に SATA コントローラのドライバをインストールします。

操作の準備

下記のとおり準備してください:

- (a) 最低 2 台の SATA ハードドライブ(最適な性能を確保するため、同一モデルで同一容量の 2 台のハードドライブの使用をお勧めします)。RAID を作成しない場合、1 台のハードドライブだけ準備できます。
- (b) 空白のフォーマット済みフロッピーディスク。
- (c) Windows XP/2000 セットアップディスク
- (d) マザーボードのドライバ CD。

(1) SATA ハードドライブをコンピュータに取り付け

SATA信号ケーブルの一方の端をSATAハードドライブの後部に接続し、他方の端をマザーボードの利用可能なSATAポートに接続します。マザーボードに複数のSATAコントローラがある場合、マザーボードのユーザマニュアルを参照してコネクタのSATAコントローラを識別します。そして、電源からの電源コネクタをハードドライブに接続します。

(2) SATA コントローラモード及び起動順序を BIOS セットアップで設定

SATAコントローラがBIOSセットアップで正しく設定され、BIOS起動をSATAハードドライブ/RAIDアレイに設定したことを確認する必要があります。

ステップ1:

コンピュータの電源を入れ、POST(Power On Self Test)の間にDelを押してBIOSセットアップに入ります。図1の例で、Integrated Peripheralsメニュー下のSerial-ATAII 1 または Serial-ATAII 2 が有効になっていることを確かめます(Serial-ATAII1はSATAII0/1コネクタを制御し、Serial-ATAII2はSATAII2/3コネクタを制御します)。RAIDアレイを作成する場合、IDE/SATAII RAID Config項目でENTERを押して、サブメニューに入ります。

“*” SATAコントローラにRAIDアレイを作成しない場合、この手順はスキップします。

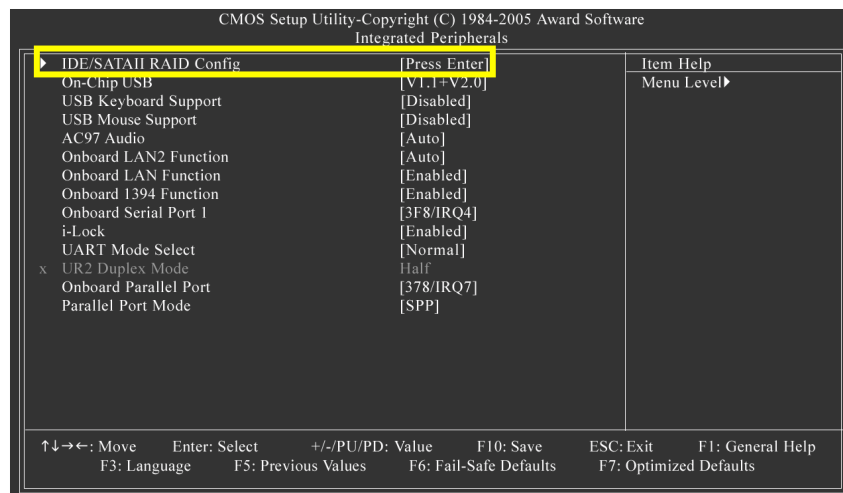


図1

IDE/SATAII RAID Configサブメニューで、IDE/SATAII RAID functionを有効にします。RAIDを構成するSATAポートとハードディスクを有効にします。図2の例では、**SATAII 1 Primary/Secondary RAID**または **SATAII 2 Primary/Secondary RAID**を有効にします。(例えば、SATAII0とSATAII1コネクタでハードディスクRAIDを作成する場合、**SATAII 1 Primary/Secondary RAID**をEnabledに設定します)。

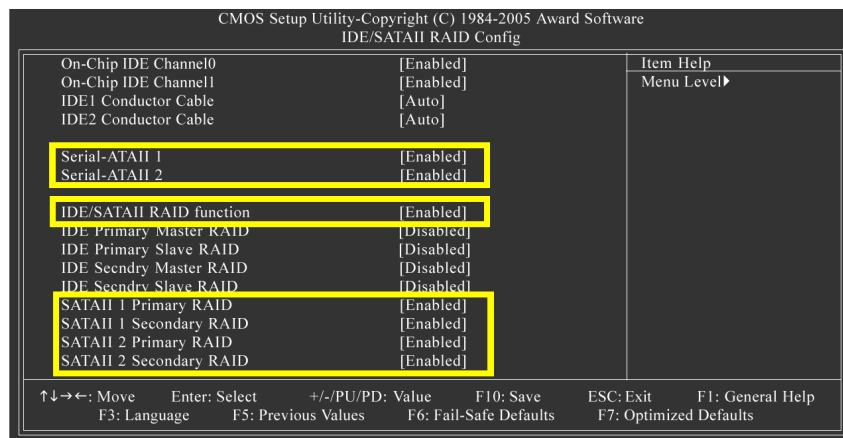


図2



このセクションで説明されている BIOS セットアップのメニューは、お使いのマザーボード用の正確な設定ではないかもしれません。実際に表示される BIOS セットアップのメニュー項目はご使用のマザーボード及び BIOS バージョンによって異なります。

ステップ2:

RAIDを作成しない場合、**Advanced BIOS Features**メニュー下の**Hard Disk Boot Priority**を選択します。**Hard Disk Boot Priority**サブメニューで、Microsoft Windows 2000/XPをインストールするSATAハードドライブのモデルを選択します。以下の図3のような画面が表示されます。

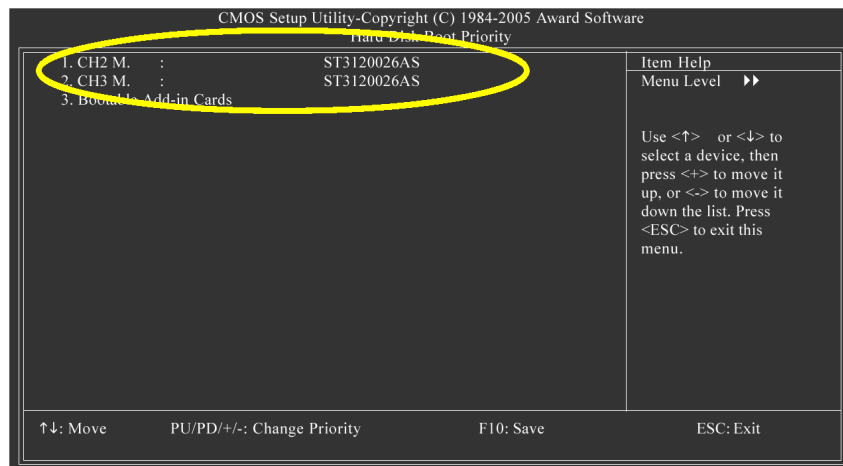


図3

システムBIOSでSATAコントローラモードを設定した後、RAIDを作成する場合、設定を保存して終了します。RAIDアレイを構成するために、RAID BIOS(6ページで説明)に行きます。終了したら、システムBIOSセットアップに再び入り、OSのインストール前にハードディスクの起動優先順位を設定します。**Advanced BIOS Features**メニューの**Hard Disk Boot Priority**を選択します。**Hard Disk Boot Priority**サブメニューで、Microsoft Windows 2000/XPをインストールするRAIDアレイを選択します(図4)。

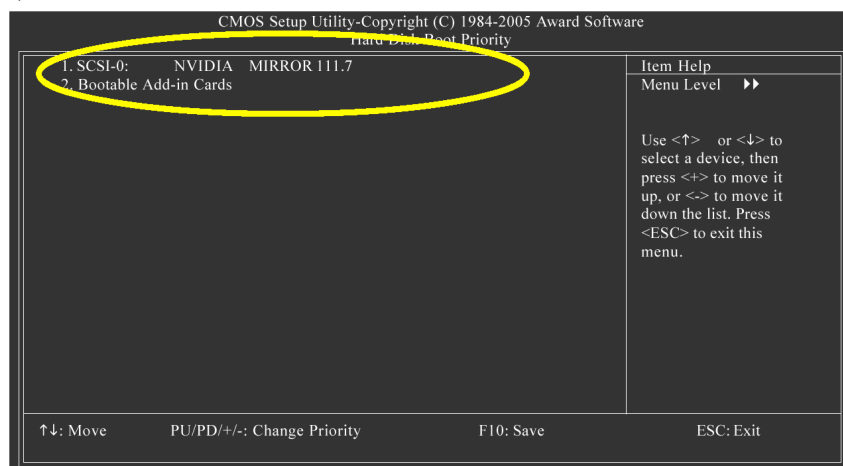


図4

ステップ3:

WindowsのインストールCDから起動するには、**Advanced BIOS Features** メニュー下の**First Boot Device**を**CD-ROM**に設定します(図5)。

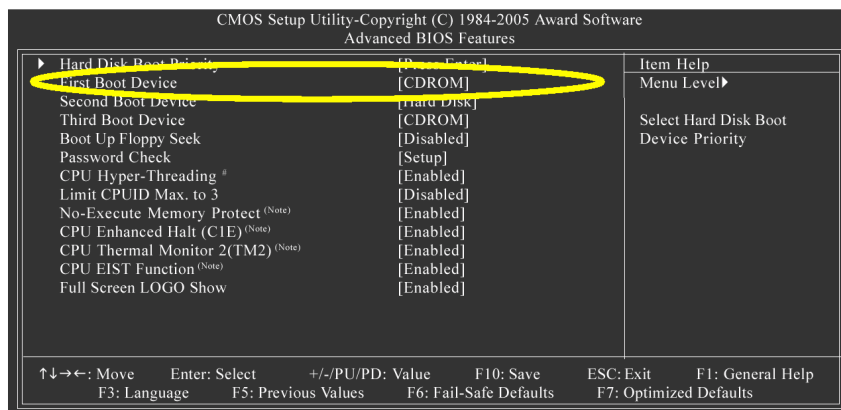


図5

ステップ4:

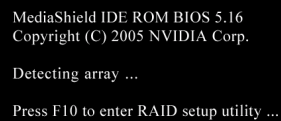
BIOSセットアップを保存して終了します。

(3) RAID BIOS での RAID 構成の設定

RAID BIOSセットアップ ユーティリティに入り、RAIDアレイを構成します。RAIDを作成しない場合、この手順をスキップしてセクション4を実施してください。

ステップ1:

POSTメモリテストが始まると、オペレーティングシステムの起動前に、“Press F10 to enter RAID setup utility”のメッセージが表示されます(図6)。F10キーを押してRAID BIOSセットアップ ユーティリティに入ります。



```
MediaShield IDE ROM BIOS 5.16
Copyright (C) 2005 NVIDIA Corp.

Detecting array ...

Press F10 to enter RAID setup utility ...
```

図6

ステップ2:

NVIDIA RAIDセットアップ ユーティリティに入ると、Define a New Array画面が最初に表示されます。TABキーを押して項目をハイライトできます。

ステップ3:

RAIDモデル欄で、上方向または下方向キーを使用してRAIDモードを選択します。対応RAIDモードには、ミラーリング(デフォルト)、ストライピング、ストライプ ミラーリング、スパニング及びRAID 5が含まれます。以下はRAID 0アレイ作成の例です。

ステップ4:

RAID 0 (ストライピング)を選択すると、ストライピング ブロックサイズを手動で設定することができます。ストライピング ブロック欄で、上方向または下方向キーを使用して、ストライピング ブロックサイズを設定します。KBはストライピング ブロックサイズの標準単位です。ここはデフォルトのままにしておくことをお勧めします - Optimal (64K)。サイズ範囲は4Kから128Kです。

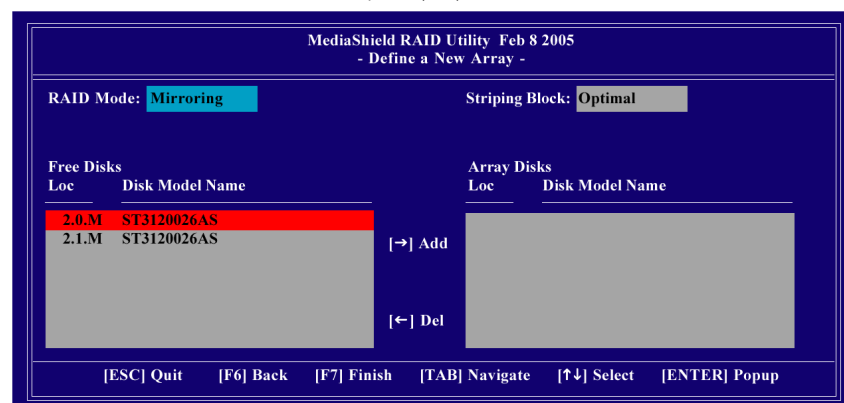


図7

ステップ5:

次に、ディスクアレイに含めるハードドライブを選択します。Free Disksセクションは現在装着されているSATAハードドライブの情報を表示します。TABキーを押して、Free Disksセクションを移動します。上方向または下方向キーを使用して目的のハードドライブを選択し、右方向キーを使用してハードドライブをArray Disksセクションに追加します(図8)。

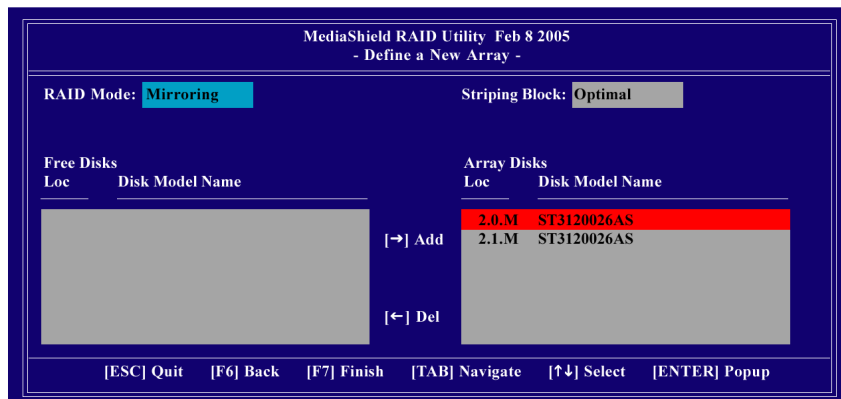


図8

ステップ6:

目的のハードディスクを選択した後、F7を押します。“Clear disk data?”のメッセージが表示されます(図9)。選択したハードドライブのデータを確かに消去する場合、Yを押します。(ハードドライブが以前作成したRAIDアレイを含む場合、Yを押してハードドライブのデータをクリアする必要があります。)

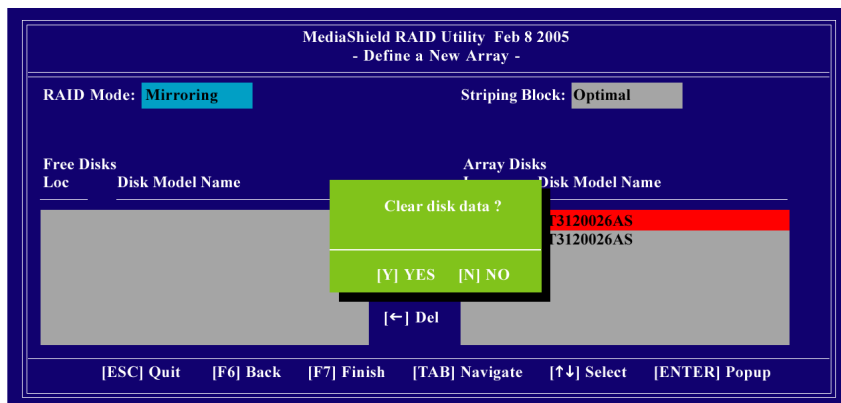


図9

その後、作成したRAIDアレイを表示するArray List画面が現れます(図10)。
ディスクアレイを起動デバイスに設定する場合、上方向または下方向キーを押してアレイを選択し、Bを押します。BootセクションにYesが表示されます。

MediaShield RAID Utility Feb 8 2005 - Array List -					
Boot	Id	Status	Vendor	Array Model Name	
No	2	Healthy	NVIDIA	MIRROR	111.79G
[Ctrl-X] Exit [↑↓] Select [B] Set Boot [N] New Array [ENTER] Detail					

図10

RAIDアレイの詳細な情報を表示するには、ENTERを押してArray Detail画面(図11)に入ります。
RAIDモード、ディスクのブロックサイズ、ディスクモデル名、ディスク容量などの詳細情報を見ることができます。

Array 2 : NVIDIA MIRROR 111.79G - Array Detail -					
RAID Mode: Mirroring Striping Width : 1			Striping Block: 64K		
Adapt	Channel	M/S	Index	Disk Model Name	Capacity
2	0	Master	0	ST3120026AS	111.79GB
2	1	Master	1	ST3120026AS	111.79GB
[R] Rebuild [D] Delete [C] Clear Disk [ENTER] Return					

図11

アレイを削除するには、Array Detail画面でDを押します。“Delete this array?”メッセージが表示されたら、Yを押して確定するか、Nを押してキャンセルします。ENTERを押してArray List画面に戻ります。

Nvidia RAIDユーティリティを終了するには、メイン画面でESCを押すか、Array List画面でCtrl+Xを押します。

これで、SATAコントローラのドライバとオペレーティングシステムをインストールできます。

(4) SATA コントローラのドライバディスクの作成

nVIDIA nForce4 SLI コントローラのSATAハードドライブ/RAIDアレイにWindows 2000/XPを正しくインストールするには、OSインストール中にSATAコントローラ用のドライバをインストールする必要があります。ドライバがないと、Windowsセットアップ プロセスはハードドライブ/RAIDアレイを認識できません。

まず、マザーボードのドライブCDよりSATAコントローラ用のドライバをフロッピーディスクにコピーします。以下の手順はドライバのコピー方法を説明します。

ステップ1: 利用可能なシステムを見つけ、マザーボードのドライバCDをCD-ROMドライブに挿入します。インストール ユーティリティが自動的に表示されます。まずインストール ユーティリティを終了します。

ステップ2: **My Computer**を開き、CD-ROMドライブのアイコンを右クリックして**Open**を選択します(図12)。



圖 12

ステップ3: **BootDev**フォルダを開き、**MENU.exe**という名の実行プログラムを探します(図13)。

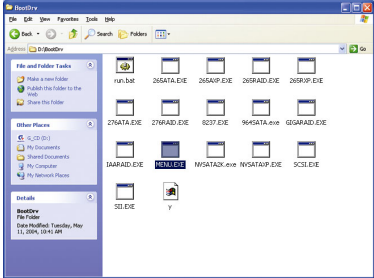


图 13

ステップ4:

MENU.exeをダブルクリックします。図14に似たMS-DOSプロンプト画面が表示されます(注)。

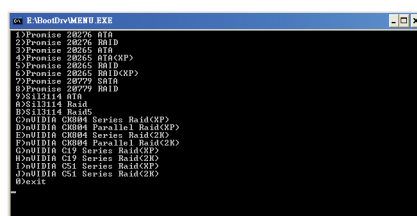


图14

ステップ5:

空のフロッピーディスクを挿入した後、対応する文字を押してメニューからnVIDIA Serial ATAドライバを選択します（例えば、図14のメニューでは、Windows XPをインストールする場合はCを押してnVIDIA CK804 Series Raid (XP)を選択し、Windows 2000をインストールする場合はEを押してnVIDIA CK804 Series Raid (2K)を選択します）。マザーボードのドライブバCDからフロッピーディスクにSATAドライバをコピーするには約1分ほどかかります。

ステップ6:

処理が完了したら、0を押して終了します。

(注):メニューのドライバ名は、ドライバCD-ROMディスクのバージョンにより異なることがあります。

(5) OS インストール中に SATA コントローラ ドライバをインストール

既にSATAドライバディスクを準備し、BIOSを設定したので、ドライバを使用してWindows 2000/XPをSATAハードドライブにインストールする準備が整いました。以下はWindows XPのインストール例です。

ステップ1: Windows 2000/XPセットアップディスクでシステムを再起動し、“Press F6 if you need to install a 3rd party SCSI or RAID driver”のメッセージ(図15)が表示されたら直ちにF6を押します。F6を押した後、いくつかのファイルの読み込みを待ってから、次の画面が表示されます。

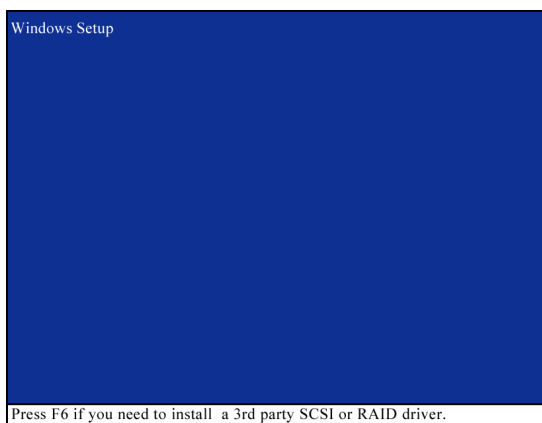


図15

ステップ2:

以下に似た画面(図16)が表示されたら、SATAドライバを含むフロッピーディスクを挿入して、Sを押します。

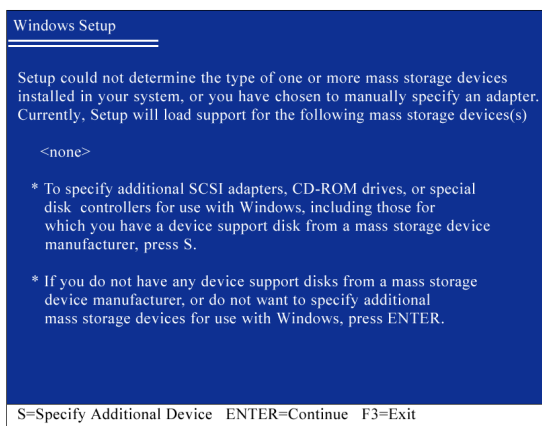


図16

ステップ3:

セットアップがフロッピーディスク内のドライバを正しく認識した場合、以下の図17に似たコントローラメニューが表示されます。矢印キーを使用して**NVIDIA RAID CLASS DRIVER*** (図17)を選択して、Enterを押します。その後、図18に似た画面が表示される時、Sを押して追加のドライバを選択する必要があります。画面は図17のような前の画面に戻ります。**NVIDIA NForce Storage Controller**を選択し、ENTERを押します。

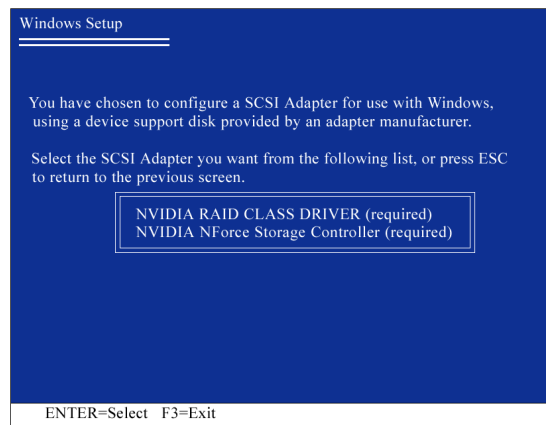


図17

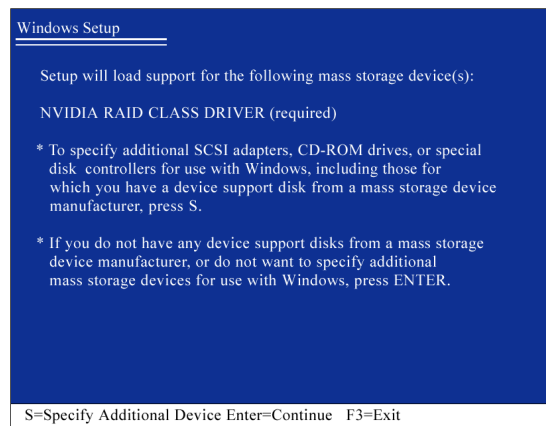


図18



注意

幾つかのファイルが見つからない旨のメッセージが表示されたら、フロッピーディスクを確認するか、マザーボードのドライバCD から正しい SATAドライバを再度コピーします。

- “*” RAIDを作成する場合、**NVIDIA RAID CLASS DRIVER** と **NVIDIA NForce Storage Controller**の両方を選択します。
RAIDを作成しない場合、**NVIDIA NForce Storage Controller**のみを選択してください。

ステップ4:

次の画面(図19)が表示されたら、ENTERを押して、フロッピーディスクからのSATAドライバ インストールを継続します。

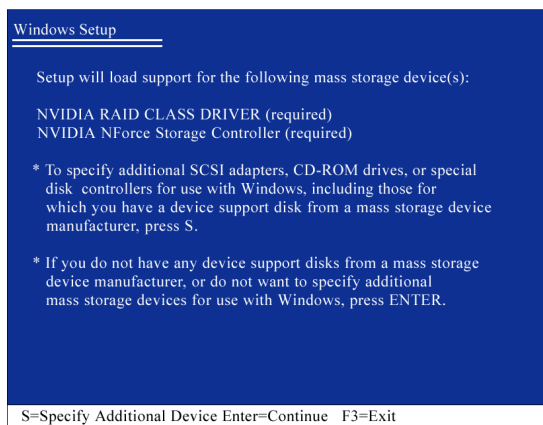


図19

SATAコントローラ ドライバのインストールが完了した後、以下に似た画面が表示されるはずで
す。これでWindows 2000/XPのインストールを継続できます。

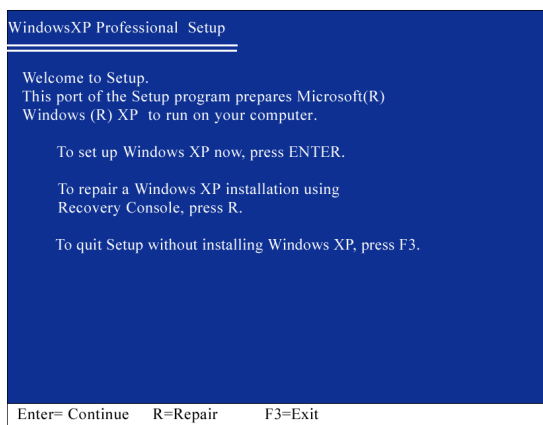


図20

(6) Microsoft 2000 で起動可能な RAID アレイを構成

問題:Service Pack 2(またはそれ以前のバージョン)のWindows 2000を起動可能RAIDボリュームにインストールできない。

2種類のソリューションでこの問題を解決することができます。

ソリューション1:

NVRAIDツール(nForceドライバ バージョン5.xx)を使用して起動ボリュームをRAIDアレイに変換してください。以下はステップ バイ ステップの詳細手順です:

ステップ1:

Windows 2000を選択したハードドライブにインストールします。Windows 2000 Service Pack 4をマイクロソフトのWebサイトからダウンロードしてインストールします。

ステップ2:

システムの再起動後、POST(Power-On Self Test)の間にDelを押してシステムのBIOSセットアップに入ります。**Integrated Peripherals**メニュー(図21)下で、SATAハードディスク(Windows 2000を含む)を接続したSATAポートが**Enabled**になっていることを確認します(図21/22)。設定を保存して、BIOSセットアップを終了します。

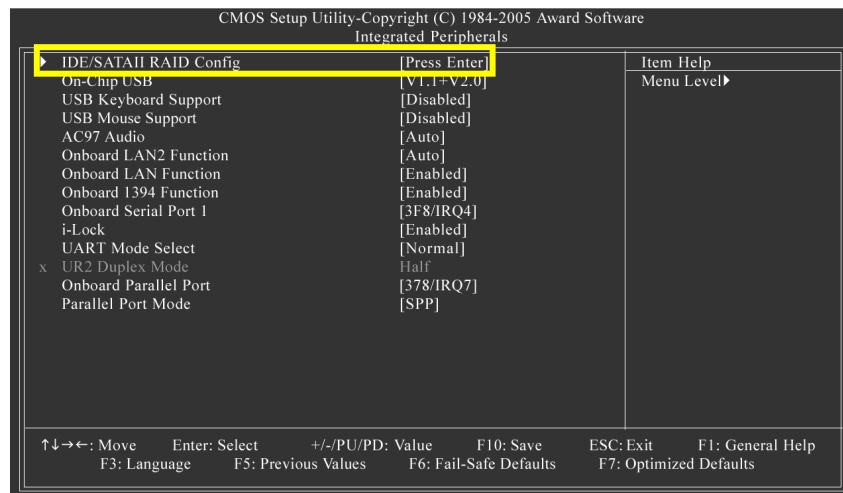


図21

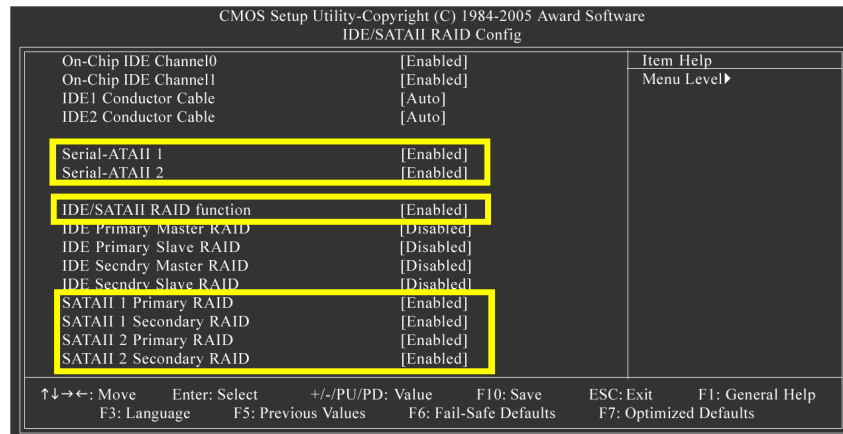


図22

ステップ3:

システムの再起動後、F10を押してNVIDIA RAIDセットアップ ユーティリティに入ります。RAID Mode欄でStripingを選択します(図23)。TABキーでFree Disksセクションに移動します。必要なディスクを選択してから、右方向キーを使用してArray Disksメニューに追加します。

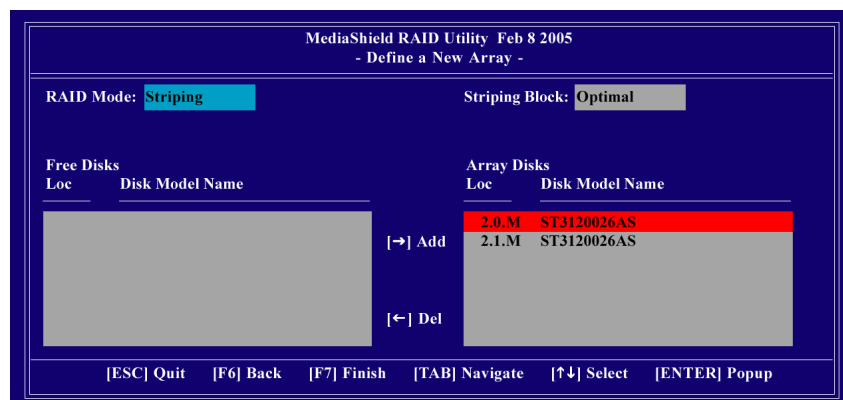


図23

ステップ4:

すべてを設定した後、F7を押して設定を完了します。Clear Disk Data (図24)が表示されたら、Nを押します。CTRL+Xを押して、NVIDIA RAID BIOSを終了します。コンピュータを再起動してWindows 2000を立ち上げます。

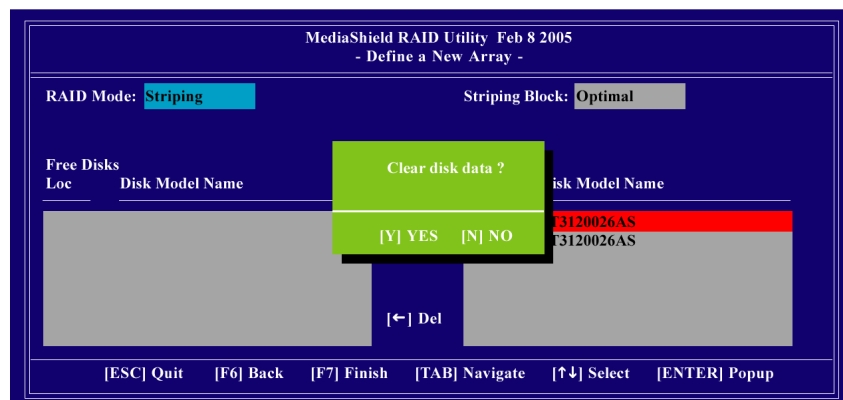


図24

ステップ5:

Windows 2000でNVIDIA nForceドライバ パッケージをインストールし、システムを再起動します。**START>Programs>Nvidia Corporation**から**NVRAID manager**を選択します。起動ディスクから作成された、単一ディスクのRAIDアレイ(ストライピング モード)が表示されます。単一の起動ディスクRAIDアレイをクリックして選択します。**System Tasks**下の**Convert Array**を選択し、指示に従って**Next**を選択します。変換したいRAIDアレイのタイプを選択して、**Next**を選択します。必要な空きディスクを起動可能RAIDアレイの追加に選択するプロンプトが表示されます。**Finish**を押すと、NVRAIDは単一ディスクのRAIDアレイを起動可能フォーマットの複数ディスクのRAIDアレイに変換します。注: ディスクサイズに応じて、変換には1~2時間かかることがあります。

ソリューション2:

ユーザはWindows 2000とService Pack 3或いはService Pack 4の修正が統合された、コンビネーション インストールCDを作成する必要があります。コンビネーション インストールCDを作成するには、以下のWebサイトを参照ください。

<http://www.microsoft.com/windows2000/downloads/servicepacks/sp4/HFdeploy.htm>

注: Windows 2000 Service Pack 3 或いは 4 のインストールしない場合でも、Windows 2000 は RAID をサポートします。しかし、起動可能な RAID ボリュームを作成することはできません。



4-1-5 2-/4-/6-/8-チャンネルオーディオ機能紹介

本マザーボードは6つのオーディオコネクタを備えています。オーディオソフトウェアの選択により2-/4-/6-/8-チャンネルのオーディオ使用できます。

オーディオコネクタの紹介:

CD-ROM/DVD-ROM、Walkmanやその他オーディオをライン入力に接続します。

フロントチャンネルまたはイヤフォンをライン出力(フロントスピーカー出力)に接続できます。

マイクロフォンはマイク入力に接続します。

リアチャンネルはリアスピーカー出力に接続します。

センター/サブウーファーチャンネルはセンター/サブウーファースピーカー出力に接続します。

サイドチャンネルはサイドスピーカー出力に接続します。

オーディオソフトウェアのインストールはとても簡単です。手続きに従って機能をインストールします。(以下の図は Windows XP のものです)

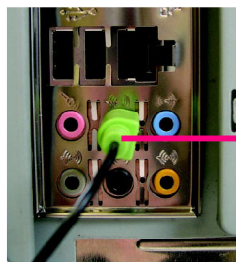


ステレオスピーカー接続および設定:

ステレオ出力を利用する場合、最良のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用をお勧めします。

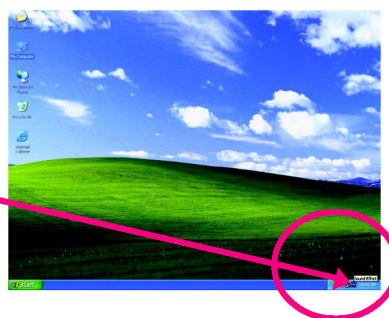
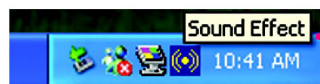
ステップ 1:

ステレオスピーカーまたはヘッドホンを“ライン出力”に接続します。



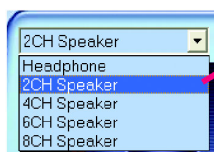
ステップ 2:

サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドイフェクトアイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:

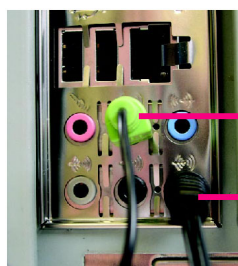
“Speaker Configuration”をクリックし、左側の選択バーをクリックして、“2CH Speaker”を選び、2チャンネルオーディオ設定を完了させます。



4 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1:

フロントチャンネルは“フロントスピーカー出力”に、リアチャンネルは“リアスピーカー出力”に接続します。

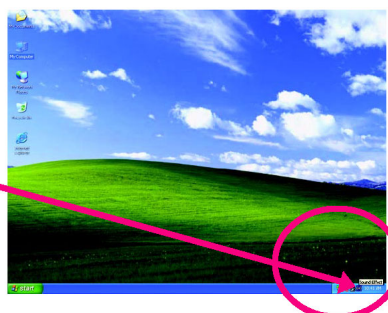


フロントスピーカー出力

リアスピーカー出力

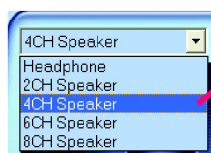
ステップ 2:

サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドイフェクト  アイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:

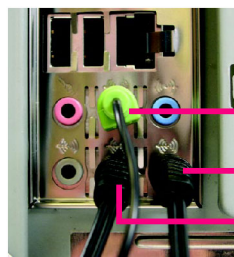
“Speaker Configuration”をクリックし、左側の選択バーをクリックして、“4CH Speaker”を選び、4チャンネルオーディオ設定を完了させます。



6 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1:

フロントチャンネルを“フロントスピーカー出力”に、リアチャンネルを“リアスピーカー出力”に、センター/サブウーファーチャンネルを“センター/サブウーファースピーカー出力”に接続します。

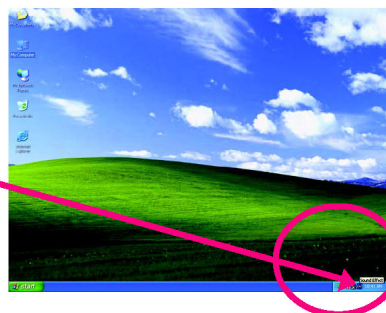


フロントスピーカー出力

リアスピーカー
センター/サブウー
ファースピー
カー出力

ステップ 2:

サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドイフェクト  アイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



ステップ 3:

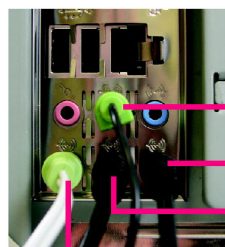
“Speaker Configuration”をクリックし、左側の選択バーをクリックして、“6CH Speaker”を選び、6 チャンネルオーディオ設定を完了させます。



8 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1:

フロントチャンネルを“フロントスピーカー出力”に、リアチャンネルを“リアスピーカー出力”に、センター/サブウーファーチャンネルを“センター/サブウーファースピーカー出力”に、サイドチャンネルを“サイドスピーカー出力”に接続します。



フロントスピーカー出力
リアスピーカー出力
センター/サブウーファースピーカー出力
サイドスピーカー出力

ステップ 2:

サウンドドライバを手順に従ってインストールすると、タスクバーの右下にサウンドイフェクトアイコンが表示されます。アイコンをクリックして機能を選びます。



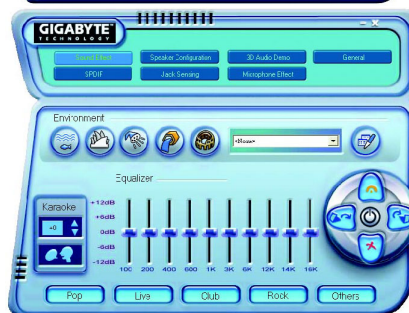
ステップ 3:

“Speaker Configuration”をクリックし、左側の選択バーをクリックして、“8CH Speaker”を選び、8チャンネルオーディオ設定を完了させます。



サウンド効果の設定:

サウンド効果メニューで、お望みのサウンド設定項目が調整可能です。



4-2 トラブルシューティング

下記は一般に尋ねられる質問を集めています。特定のモデルのマザーボードに関する一般的な質問については、www.gigabyte.com.tw にアクセスしてください。

問 1: BIOS 更新後、以前の BIOS で表示されていたオプションのいくつかが表示されません。なぜですか？

答: 詳細オプションのいくつかは新たな BIOS バージョンでは非表示となっています。BIOS メニュー表示後、Ctrl と F1 キーを同時に押すと、これらのオプションが表示されます。

問 2: コンピュータをオフにしてもキーボードや光学マウスのランプが消えないのはなぜですか？

答: ボードによっては、コンピュータをシャットダウンしてもスタンバイ用の微小電流が存在しますので、ランプがついた状態になります。

問 3: CMOS のクリア方法は？

答: ご使用のボードに CMOS クリア用ジャンパーがある場合は、マニュアル中の CMOS のクリア方法をご参照ください。お持ちのボードにそのようなジャンパーがない場合は、オンボードの電池を外してボード電圧を放電させることで CMOS がクリアできます。以下のステップをご参照ください:

ステップ:

1. 電源をオフにします。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で 1 分間ほどショートさせます)。
4. 電池を電池ホルダーに戻します。
5. マザーボードに電源コードをつなぎ、電源をオンにします。
6. Del を押して、BIOS に入り、Fail-Safe Defaults をロードします(または最適デフォルト値のロード)。
7. 設定を保存し、システムを再起動します。

問 4: スピーカー音量を最大にしても小さな音しか出ないのはなぜですか？

答: ご使用のスピーカーがアンプ内蔵かどうかご確認ください。アンプ内蔵でない場合、電源/アンプ付きスピーカーに取り替えてお試しください。

問 5: システム起動後、コンピュータから断続的にピープ音が聞こえることがあります。このピープ音にはどんな意味がありますか？

答: 下記のピープ音コードはコンピュータに生じている問題を判別するのに役立つでしょう。ただし、これらは参照用のみです。状況は実際のケースにより異なります。

→AMI BIOS ビープコード

* システム起動に成功した場合はコンピュータは短くピッと鳴ります。

* ビープコード 8 以外は、通常起動不能となります。

ビープ音 1 回リフレッシュエラー

ビープ音 2 回パリティエラー

ビープ音 3 回ベース 64K メモリエラー

ビープ音 4 回タイマーエラー

ビープ音 5 回プロセッサエラー

ビープ音 6 回 8042 ケーブル A20 エラー

ビープ音 7 回プロセッサ割り込み除外エラー

ビープ音 8 回ディスプレイメモリリード/ライトエラー

ビープ音 9 回 ROM チェックサムエラー

ビープ音 10 回 CMOS シャットダウンレジスタリード/ライトエラー

ビープ音 11 回キャッシュメモリエラー

→AWARD BIOS ビープコード

短く 1 回: システム起動成功

短く 2 回: CMOS 設定エラー

長く 1 回短く 1 回: DRAM またはマザーボードエラー

長く 1 回短く 2 回: モニタまたはディスプレイカードエラー

長く 1 回短く 3 回: キーボードエラー

長く 1 回短く 9 回: BIOS ROM エラー

連続した長いビープ音: DRAM エラー

連続した短いビープ音: 電源エラー

4-3 POST エラーコード

POST(16 進数)	説明
CFh	CMOS R/W 機能テスト
C0h	早期チップセット初期化: - シャドウ RAM の無効化 - L2 キャッシュの無効化(Socket 7 以下) - プログラム基本チップセット レジスタ
C1h	1. メモリ検出 - DRAM サイズ、タイプ、ECC の自動検出 - L2 キャッシュの自動検出(Socket 7 または以下) 2. PEG スロットの自動設定
C3h	圧縮 BIOS コードを DRAM に展開
C5h	チップセットのフック呼び出しにより BIOS を E000&F000 シャドウ RAM に書き戻す
0h1	物理アドレス 1000:0 に位置する Xgroup コードを展開
03h	初期 Superio_Early_Init スイッチ
05h	1. ブラックアウト画面 2. CMOS エラー フラグのクリア
07h	1. 8042 インタフェースのクリア 2. 8042 セルフテストの初期化
08h	1. Winbond 977 シリーズ Super I/O チップの特殊キーボード コントローラのテスト 2. キーボード インタフェースの有効化。
0Ah	1. PS/2 マウス インタフェース(オプション)の無効化。 2. ポート&インタフェースを入れ替えた場合のキーボード&マウス ポートの自動検出。 3. Winbond 977 シリーズ Super I/O チップ向けのキーボードのリセット。
0Eh	F000h セグメント シャドウをテストして、R/W 可能か確かめる。テスト失敗時にビーブ音を継続。
10h	フラッシュタイプを自動検出して、ESCD&DMI 対応用に、適切なフラッシュ R/W コードを F000 のランタイムエリアに読み込む。
12h	ウォーキング 1 のアルゴリズムで、CMOS 回路のインタフェースをチェック。また、リアルタイムのクロックパワー状態を設定して、オーバーライドをチェック。
14h	チップセットのデフォルト値をチップセットにプログラムする。チップセットのデフォルト値は OEM カスタマにより MODBIN 可能。
16h	Early_Init_Onboard_Generator スイッチを初期化。
18h	ブランド、SMI タイプ(Cyrix や Intel)、CPU レベル(586 や 686)を含む CPU 情報の検出。
1Bh	初期割り込みベクタテーブル。特別に指定がない場合、すべての H/W 割り込みは SPURIOUS_INT_HDLR に、S/W 割り込みは SPURIOUS_soft_HDLR に向ける。

POST(16 進数)	説明
1Dh	初期 EARLY_PM_INIT スイッチ
1Fh	キーボード マトリックスの読み込み (ノートブック プラットフォーム)
21h	HPM 初期化(ノートブック プラットフォーム)
23h	1. RTC 値の有効性チェック: 例、5Ah の値は RTC 記録としては不正値。 2. CMOS 設定を BIOS スタックに読み込み。CMOS チェックサムが失敗 すると、デフォルト値を替わりに使用。 3. PCI&PnP 用途に BIOS リソースマップを準備。ESCD が有効な場合、 ESCD のレガシー情報を考慮に入れる。 4. オンボード クロック生成器の初期化。空の PCI&DIMM スロットの 各クロック リソースを無効化。 5. 早期 PCI 初期化: - PCI バス番号の列挙 - メモリ&I/O リソースを割り当て - 有効な VGA デバイス&VGA BIOS を検索し、C000:0 に入れる。
25h	PCI バス初期化
26h	クロック生成器を初期化
27h	INT 09 バッファを初期化
29h	1. 0-640K メモリアドレス向けの CPU 内部 MTRR (P6 & PII)をプログラム する。 2. Pentium クラス CPU 向け APIC を初期化。 3. CMOS セットアップに従って早期チップセットをプログラムする。例: オンボード IDE コントローラ。 4. CPU 速度の測定
2Bh	ビデオ BIOS を使用。
2Dh	1. 多言語の初期化 2. Award タイトル、CPU タイプ、CPU 速度....を含む情報を画面に表 示。
33h	Winbond 977 シリーズ Super I/O チップ以外のキーボードをリセット
3Ch	8254 のテスト
3Eh	チャンネル 1 用の 8259 割り込みマスクビットのテスト。
40h	チャンネル 2 用の 8259 割り込みマスクビットのテスト。
43h	8259 機能のテスト。
47h	EISA スロットの初期化
49h	1. 各 64K ページの最後のダブルワードをテストしてトータルメモリを 算出。 2. AMD K5 CPU 64K ページの書き込み割り当てをプログラムする。
4Eh	1. M1 CPU の MTRR をプログラムする。 2. P6 クラス PCU の L2 キャッシュを初期化 & CPU を適切なキャッ シュ範囲でプログラムする。 3. P6 クラス PCU 向け APIC を初期化。 4. MP プラットフォームで、各 CPU のキャッシュ可能範囲が同一でな い場合、キャッシュ可能範囲を小さい方に調節。

POST(16 進数)	説明
50h	USB の初期化
52h	全メモリのテスト(全ての拡張メモリを 0 にクリア)
55h	プロセッサ数の表示(マルチプロセッサのプラットフォーム)
57h	1. PnP ログの表示 2. 早期 ISA PnP 初期化 - CSN を全ての ISA PnP デバイスに割り当て
59h	統合された Trend Anti-Virus コードを初期化。
5Bh	(オプション機能) FDD から AWDFLASH.EXE を開始するメッセージを表示 (オプション)
5Dh	1. Init_Onboard_Super_IO スイッチを初期化。 2. Init_Onboard_AUDIO スイッチを初期化。
60h	セットアップ ユーティリティの実行を許可。例:この POST ステージまで、ユーザは CMOS セットアップ ユーティリティを実行不能。
65h	PS/2 マウスの初期化
67h	ファンクションコール用にメモリサイズ情報を準備: INT 15h ax=E820h
69h	L2 キャッシュを有効化
6Bh	Setup & Auto-configuration テーブルに記述された項目に従ってチップ セットレジスタをプログラムする。
6Dh	1. リソースを全ての ISA PnP デバイスに割り当てる。 2. Setup の対応項目が"AUTO"に設定された場合、ポートをオンボード COM ポートに自動的に割り当てる。
6Fh	1. フロッピー コントローラの初期化 2. 40:ハードウェアのフロッピー関連フィールドを設定。
73h	(オプション機能) 次の場合に AWDFLASH.EXE を実行: - AWDFLASH がフロッピードライブに見つかった。 - ALT+F2 が押された
75h	全ての IDE デバイス:HDD、LS120、ZIP、CDROM;K を検出&インストール..
77h	シリアルポート&パラレルポートを検出。
7Ah	コプロセッサを検出&インストール
7Fh	1. 全画面ロゴがサポートされた場合、テキストモードに戻る。 - エラーが発生した場合、エラーを報告し、キー入力待つ - エラーが発生しなかったか、継続するために F1 キーが押された: ◆ EPA またはカスタマイズ ログをクリア。
	E8POST.ASM 開始

POST(16 進数)	説明
82h	1. チップセットの電源管理フックをコール。 2. EPA ログに使用するテキストフォントを復元(全画面ロゴ用ではない) 3. パスワードが設定されたら、パスワードを要求。
83h	スタックの全てのデータを CMOS に書き戻す
84h	ISA PnP ブートデバイスを初期化
85h	1. USB 最終初期化 2. NET PC:SYSID 構造を構築 3. 画面をテキストモードに切り替え 4. ACPI テーブルをメモリトップに設定。 5. ISA アダプタ ROM を使用 6. IRQ を PCI デバイスに割り当て 7. APM を初期化 8. IRQ のノイズをクリア。
93h	Trend Anti-Virus コード向けに HDD ブートセクタ情報を読む
94h	1. L2 キャッシュを有効化 2. プログラム起動速度 3. チップセット最終初期化。 4. 電源管理の最終初期化 5. 画面&表示概要テーブルのクリア 6. K6 書き込み割り当てをプログラムする 7. P6 クラス書き込み結合性をプログラムする
95h	1. サマータイムをプログラムする 2. キーボードの LED 及びタイプマチック レートを更新
96h	1. MP テーブルを構築 2. ESCD を構築&更新 3. CMOS 世紀を 20h または 19h に設定 4. CMOS 時間を DOS タイマーチェックに読み込む 5. MSIRQ ルーティング テーブルを構築
FFh	起動試行(INT 19h)

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]



当社への御連絡

• Taiwan (Headquarters)

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei 231,
Taiwan.
TEL: +886-2-8912-4888
FAX: +886-2-8912-4003
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address (English): <http://www.gigabyte.com.tw>
WEB address (Chinese): <http://chinese.giga-byte.com>

• U.S.A.

G.B.T. INC.
TEL: +1-626-854-9338
FAX: +1-626-854-9339
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.com>

• Germany

G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.de>

• Japan

NIPPON GIGA-BYTE CORPORATION
WEB address : <http://www.gigabyte.co.jp>

• Singapore

GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address: <http://www.gigabyte.com.sg>

• U.K.

G.B.T. TECH. CO., LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://uk.giga-byte.com>

• The Netherlands

GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.nl>

• **China**

NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.com.cn>

Shanghai

TEL: +86-021-63410999
FAX: +86-021-63410100

Beijing

TEL: +86-10-62102838
FAX: +86-10-62102848

Wuhan

TEL: +86-27-87851061
FAX: +86-27-87851330

GuangZhou

TEL: +86-20-87586074
FAX: +86-20-85517843

Chengdu

TEL: +86-28-85236930
FAX: +86-28-85256822

Xian

TEL: +86-29-85531943
FAX: +86-29-85539821

Shenyang

TEL: +86-24-23960918
FAX: +86-24-23960918-809

• **Australia**

GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.com.au>

• **France**

GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCES S.A.R.L.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.fr>

• **Russia**

Moscow Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.ru>

• **Poland**

Office Of GIGA-BYTE TECHNOLOGY Co., Ltd. In
POLAND Tech. Support:
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.pl>

• **Serbia & Montenegro**

Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
In SERBIA & MONTENEGRO
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address: <http://www.gigabyte.co.yu>

• **Czech Republic**

Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
In CZECH REPUBLIC
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address: <http://www.gigabyte.cz>

• **Romania**

Representative Office Of GIGA-BYTE Technology Co., Ltd.
In Romania
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address: <http://www.gigabyte.com.ro>